

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター
令和3年度の業務実績に関する評価結果報告書

令和4年8月
岡山市

目次

はじめに	1
1. 全体評価	
(1) 評価結果及び判断理由、考慮した事由	2
(2) 全体評価にあたっての意見・指摘等	3
2. 項目別評価	
(1) 大項目評価	
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためとるべき措置	4
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	7
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	8
第4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置	9
(2) 小項目評価	
ア. 地方独立行政法人岡山市立総合医療センターの概要	10
イ. 全体状況	12
ウ. 小項目評価結果	
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成する ためとるべき措置	
1 市立病院として特に担うべき医療	17
2 医療の質の向上	38
3 市民・患者サービスの向上	48
4 地域医療ネットワークの推進	57
5 教育及び人材育成	64
6 保健・医療・福祉連携への貢献	66
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 業務運営体制の構築	69
2 職員のやりがいと満足度の向上	73
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 持続可能な経営基盤の確立	78
2 収入の確保及び費用の節減	80
第4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置	
1 健康・医療・福祉を核としたまちづくりへの貢献	83
<参考資料>	
地方独立行政法人岡山市立総合医療センター業務実績評価の基本方針	84
地方独立行政法人岡山市立総合医療センター年度評価実施要領	87

はじめに

地方独立行政法人法第28条の規定に基づき、地方独立行政法人岡山市立総合医療センターの令和3年度における業務実績の全体について、地方独立行政法人岡山市立総合医療センター評価委員会の意見聴取を行った上で、総合的に評価を実施した。

評価に際しては、「地方独立行政法人岡山市立総合医療センター業務実績評価の基本方針」及び「地方独立行政法人岡山市立総合医療センター年度評価実施要領」に基づき行った。

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター評価委員会委員名簿

	氏名	役職名等
委員長	小川 弘子	岡山大学大学院医歯薬学総合研究科 地域医療人材育成講座 教授
職務代理	松本 安治	地方独立行政法人岡山県精神科医療センター 常務理事
	飛山 美保	弁護士
	野田 尚紀	公認会計士・税理士
	平田 洋	一般社団法人岡山市医師会 会長

1. 全体評価

(1) 評価結果及び判断理由、考慮した事由

地方独立行政法人岡山市立総合医療センターにおける令和3年度の全体評価の結果は、
「**全体として中期計画の実現に向けて概ね計画どおり進んでいる**」とする。

第2期中期目標・中期計画の最終年となる令和3年度の業務実績に関する評価については、4ページ以降に詳しく示すように、第1から第4までの大項目全ての項目について「評価3（中期計画の実現に向けて概ね計画どおり進んでいる）」と判断した。

また、39の小項目のうち、97.4%に当たる38項目において、「年度計画を順調に実施している」以上の評価とした。

全体評価に当たり、特筆すべき項目は以下のとおりである。

- ・市民病院については、救急医療、感染症医療の分野において新型コロナ患者の受入れやゲノム解析の実施等により地域の中心的な役割を果たしたこと。
- ・せのお病院については、外来リハビリ・MRIの共同利用の充実により地域医療に貢献するとともに、病棟カンファレンスの充実により住み慣れた地域での在宅生活継続に貢献したこと。
- ・医療の質の向上の面では、院内感染防止対策を着実に遂行したほか、クリニカルパスの使用率がさらに伸びていること。
- ・市民・患者サービスの向上の面では、テレビ出演等による新型コロナ関係を中心とした情報発信を継続したほか、webを活用した講座や、地域ケア総合推進センターとの共催による新たな講座の開催などにも取り組んだこと。
- ・地域医療ネットワークの推進の面においては、県内の医師不足地域の自治体病院等への医師派遣を継続し、人的支援の面においても貢献していること。
- ・教育及び人材育成の面では、コロナ禍においても岡山大学との連携を高い水準で維持したほか、臨床指導医の1名増を実現し、人材育成・教育体制をさらに充実していること。
- ・業務運営体制の構築の面においては、医師をはじめとした多様な人材の確保ができており、診療体制の強化・充実がさらに進んでいること。

一方で、以下のとおり課題となる項目も見受けられた。

- ・人事評価制度の運用に関し、業績評価の実施に向けた検討が進んでいないこと。

また、財務内容の改善の項目においては、入院外来とも患者数が減少する中、積極的に新型コロナ対応に取組み、補助金収入により前年度に引き続き黒字を確保した。

以上、特筆すべき項目や特に課題となった項目などを総合的に勘案した結果、令和3年度業務実績の全体評価は、「**全体として中期計画の実現に向けて概ね計画どおり実施できている**」とした。

大項目	評価 項目数	小項目評価結果数					小項目 平均評点	大項目 評価
		S	A	B	C	D		
第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置	30	3	12	15	0	0	3.6	3
第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置	6	0	2	3	1	0	3.2	3
第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置	2	0	0	2	0	0	3.0	3
第4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置	1	0	0	1	0	0	3.0	3
合計	39	3	14	21	1	0		

(2) 全体評価にあたっての意見・指摘等

- 市民病院については、新型コロナ対応において中心的な役割を継続した。特に、新型コロナと一般救急の両立に向けて集中治療室の個室化工事などの体制整備を進め、救急応需率の改善を図ったほか、ゲノム解析を実施し変異株等の情報を関係機関に提供するなど、救急・感染症医療の分野において市民の安全・安心に大きく貢献している。今後とも市民が安心できる救急医療の提供を期待する。
- せのお病院については、外来リハビリ体制の充実やMRIの共同利用を推進し、地域医療への貢献に努めている。病棟カンファレンスの充実により退院支援を強化したほか、急性期病院からの新型コロナ回復後の患者の受入れに努め、後方支援病院としての役割を果たしており、今後とも周辺地域における中心的な役割を果たすことを期待する。
- 院内感染対策については、新型コロナ感染が急拡大する中でも感染対策を徹底し、職員の感染を最小限に抑えることができている。
- 人事評価制度の運用については、能力評価を例年通り実施しているものの、業績評価の実施に向けた検討については計画どおり進められていない。難しい課題であるが、実施に向けた取組を進めていただきたい。
- 財務内容の改善に関しては、積極的な新型コロナ対応による補助金収入により経常収支比率を改善しているが、減少した患者数をどのように回復させていくかといった課題についても、検討していく必要がある。

2. 項目別評価

(1) 大項目評価

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置					
評価結果	5 中期計画の実現に向けて特筆すべき進捗状況にある	4 中期計画の実現に向けて目標を上回って実施している	3 中期計画の実現に向けて概ね計画どおり進んでいる	2 中期計画の実現のためにはやや遅れている	1 中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある

小項目評価の集計結果

小項目	評価					評点
	S	A	B	C	D	
1 市立病院として特に担うべき医療						
(1) 市民病院						
ア 救急医療、岡山 E R	○					5
イ 感染症医療	○					5
ウ 災害医療			○			3
エ 小児・周産期医療			○			3
オ セーフティネット機能		○				4
カ 高度専門医療		○				4
(2) せのお病院						
ア 地域医療		○				4
イ 後方支援の役割			○			3
ウ 初期救急医療の提供			○			3
エ 地域包括ケアの充実への貢献			○			3
オ 災害医療			○			3
2 医療の質の向上						
(1) 安全・安心な医療の提供						
ア 医療安全対策			○			3
イ 院内感染防止対策	○					5
ウ 行動規範と倫理の確立			○			3
(2) 総合的な診療体制の確立とチーム医療の推進		○				4
(3) 医療の標準化の推進						
ア 総合情報システムの活用			○			3
イ クリニカルパス		○				4
(4) 調査・研究の実施			○			3

3 市民・患者サービスの向上						
(1) 患者中心の医療の提供						
ア インフォームドコンセント、セカンドオピニオン			○			3
イ 薬剤管理指導・栄養食事指導		○				4
ウ 患者ニーズの把握等		○				4
エ 紛争解決			○			3
(2) 職員の接遇向上			○			3
(3) 市民や患者にわかりやすい情報発信		○				4
4 地域医療ネットワークの推進						
(1) 地域医療連携の推進		○				4
(2) 在宅医療を含む地域医療への支援						
ア 在宅医療の推進			○			3
イ 医師不足地域等への人的支援等		○				4
5 教育及び人材育成		○				4
6 保健・医療・福祉連携への貢献						
(1) 保健医療福祉行政への協力		○				4
(2) 疾病予防の取組			○			3
構成比／平均評点	10.0%	40.0%	50.0%	0.0%	0.0%	3.6

内容及び判断にあたって考慮した事由

全ての項目で「年度計画を順調に実施している」以上の実施状況と評価した。そのうち3項目を「年度計画を大幅に上回って実施している」、12項目を「年度計画を上回って実施している」良好な実施状況であると判断した。

○「年度計画を上回って実施している」項目

- ・市民病院（救急医療・岡山ER、感染症医療、セーフティネット機能、高度専門医療）
- ・せのお病院（地域医療）
- ・安全・安心な医療の提供（院内感染防止対策）
- ・総合的な診療体制の確立とチーム医療の推進
- ・医療の標準化の推進（クリニカルパス）
- ・患者中心の医療の提供（薬剤管理指導・栄養食事指導、患者ニーズの把握等）
- ・市民や患者にわかりやすい情報発信
- ・地域医療連携の推進
- ・在宅医療を含む地域医療への支援（医師不足地域等への人的支援等）
- ・教育及び人材育成
- ・保健医療福祉行政への協力

評価にあたっての意見・指摘等

○「1(1)ア 市民病院 救急医療・岡山ER」

- ・市民病院の救急医療については、新型コロナと一般救急の両立に向けて整備した体制を活用し、引き続き市民が安心できる救急医療の提供を期待する。

○「1(1)エ 市民病院 小児・周産期医療」

- ・病的新生児、重症疾患等を岡山医療センター及び岡山赤十字病院等に搬送することについて、転送先医療機関がどのような病院なのかの説明をもう少し記載していただきたい。

○「1(1)オ 市民病院 セーフティネット機能」

- ・市民病院については、休日のコロナ対応など、地域において対応が難しい医療の提供に関し引き続き役割を果たしていくことを期待する。

○「1(2)ア せのお病院 地域医療」

- ・せのお病院については、外来リハビリ体制の充実やMRIの共同利用を推進するとともに、退院支援の取組みを継続し、周辺地域における中心的な役割を果たしていくことを期待する。

○「2(1)イ 院内感染防止」

- ・院内感染の防止について、引き続き感染対策を徹底し、患者及び職員の安全と医療提供体制を確保していくことを期待する。

○「3(3) 市民や患者にわかりやすい情報発信」

- ・テレビ出演等による情報発信のほか、ウェブを活用した資料公開や新たに開始した市民向け講座による積極的な情報発信を継続していくことを期待する。

○「4(2)イ 医師不足地域等への人的支援等」

- ・従来の派遣体制を維持しつつ、必要に応じて派遣回数を増加するなどし、今後も自治体病院間連携において中心的な役割を果たしていくことを期待する。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果	5 中期計画の実現に向けて特筆すべき進捗状況にある	4 中期計画の実現に向けて目標を上回って実施している	3 中期計画の実現に向けて概ね計画どおり進んでいる	2 中期計画の実現のためにはやや遅れている	1 中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある
------	------------------------------	-------------------------------	------------------------------	--------------------------	--------------------------------

小項目評価の集計結果

小項目	評価					評点
	S	A	B	C	D	
1 業務運営体制の構築						
(1) 業務運営体制の構築			○			3
(2) 多様な人材の確保		○				4
(3) 外部評価等の活用			○			3
2 職員のやりがいと満足度の向上						
(1) 研修制度の充実及び資格取得への支援		○				4
(2) 適正な人事評価制度				○		2
(3) 職場環境の整備			○			3
構成比／平均評点	0.0%	33.3%	50.0%	16.7%	0.0%	3.2

内容及び判断にあたって考慮した事由

6項目中5項目について「年度計画を順調に実施している」以上の実施状況と評価し、そのうち2項目は「年度計画を上回って実施している」良好な実施状況と判断した。一方で、1項目については「年度計画を十分に実施できていない」実施状況と評価した。

○「年度計画を上回って実施している」項目

- ・多様な人材の確保
- ・研修制度の充実及び資格取得への支援

○「年度計画を十分に実施できていない」項目

- ・適正な人事評価制度

評価にあたっての意見・指摘等

○「2 (2) 適正な人事評価制度の実施

- ・人事評価制度の実施にあたっての職員負担に配慮しながら、業績評価の導入に向けた検討を進めていただきたい。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果	5	4	3	2	1
	中期計画の実現に向けて特筆すべき進捗状況にある	中期計画の実現に向けて目標を上回って実施している	中期計画の実現に向けて概ね計画どおり進んでいる	中期計画の実現のためにはやや遅れている	中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある

小項目評価の集計結果

小項目	評価					評点
	S	A	B	C	D	
1 持続可能な経営基盤の確立			○			3
2 収入の確保及び費用の節減			○			3
構成比／平均評点	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0.0%	3.0

内容及び判断にあたって考慮した事由

2項目すべてについて「年度計画を順調に実施している」実施状況と評価した。

評価にあたっての意見・指摘等

○「1 持続可能な経営基盤の確立」

- ・積極的な新型コロナ対応による補助金収入により経常収支比率を改善しているが、減少した患者数をどのように回復させていくかといった課題についても、検討を進めていただきたい。

第4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置

評価結果	5 中期計画の実現に向けて特筆すべき進捗状況にある	4 中期計画の実現に向けて目標を上回って実施している	3 中期計画の実現に向けて概ね計画どおり進んでいる	2 中期計画の実現のためにはやや遅れている	1 中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある
------	------------------------------	-------------------------------	------------------------------	--------------------------	--------------------------------

小項目評価の集計結果

小項目	評価					評点
	S	A	B	C	D	
1 健康・医療・福祉を核としたまちづくりへの貢献			○			3
構成比／平均評点	0.0%	0.0%	100.0%	0.0%	0	3.0

内容及び判断にあたって考慮した事由

該当の1項目について「年度計画を順調に実施している」実施状況と評価した。

評価にあたっての意見・指摘等

○「1 健康・医療・福祉を核としたまちづくりへの貢献」

- ・今後も隣接の健康・医療・福祉系施設を有効に活用し、研修や講座の開催により市民の健康増進等に貢献していくことを期待する。

(2) 小項目評価

※地方独立行政法人岡山市立総合医療センターより提出のあった「地方独立行政法人岡山市立総合医療センター令和3年度に係る業務実績報告書」を活用し、小項目評価を行った。

ア. 地方独立行政法人岡山市立総合医療センターの概要

(1) 現況（令和3年4月1日現在）

① 法人名

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター

② 本部の所在地

岡山市北区北長瀬表町三丁目20番1号

③ 運営する病院

病院名	所在地	病床数
岡山市立 市民病院	岡山市北区北長瀬表町 三丁目20番1号	400 床
		・ 一般病床 387 床
		・ 結核病床 7 床
岡山市立 せのお病院	岡山市南区妹尾 850 番地	60 床
		・ 一般病床 —
		・ 地域包括ケア病床 60 床

④ 役員の状況

役職名	氏名	備考
理事長	松本 健五	岡山市立市民病院長兼務
常務理事	片山 伸二	法人本部長兼務 法人本部事務局長兼務
理 事	前田 嘉信	岡山大学理事 岡山大学病院長 地方独立行政法人玉野医療センター理事
	東 良平	独立行政法人国立病院機構 岡山医療センター名誉院長
	高橋 邦彰	岡山商工会議所専務理事 岡山県商工会議所連合会専務理事
	今城 健二	岡山市立市民病院副院長兼務
	臼井 正明	岡山市立市民病院副院長兼務
監 事	吉沢 徹	弁護士
	大倉 宏治	公認会計士・税理士

⑤ 職員数

区分	医師	看護師	事務員	臨床検査 技師ほか	計
特別職	1人	0人	1人	0人	2人
正規職員	83人	432人	63人	155人	733人
嘱託職員	8人	0人	11人	20人	39人
再雇用職員	0人	7人	6人	11人	24人
非正規職員	79人	67人	79人	48人	273人
計	171人	506人	160人	234人	1,071人

※岡山市からの派遣職員を含む。

※職員を兼ねる役員を含む。

(2) 入院及び外来患者数

病院名	入院患者	外来患者
岡山市立市民病院	111,820人	133,659人
岡山市立せのお病院	19,037人	13,726人

※令和3年度における延べ患者数

(3) 基本的な目標等

■ 基本的な目標

地方独立行政法人岡山市立総合医療センターは、岡山市の医療政策として求められる救急医療、感染症医療、災害時における医療及び高度医療の提供、地域医療の支援等を行うことにより、岡山市内における医療水準の向上を図り、もって市民の生命と健康を守ることを目的とし、市民に必要とされる医療を確実に実施する。

また、柔軟で迅速な人材確保など、機動性・弾力性が高く、自律的な経営を実践するとともに、市民へのより良い医療の提供と、より効果的・効率的な病院運営を行い、地域医療の推進のための重要な役割を担うことにより、岡山市長から指示された中期目標を達成する。

■ 基本理念

心技体

- ・心の通い合う医療の提供
- ・質の高い安全な医療の提供
- ・健全で自立した経営と働きやすい職場

■ 基本方針

【岡山市立市民病院】

私たちは、市民に信頼され、期待される病院であり続けるために、次のことを実践します。

1. 患者中心の医療

患者に対し十分な説明と同意のもとに医療を提供し、かつ、診療情報を積極的に公開し、患者の尊厳・権利を尊重する患者中心の全人的医療を行います。

2. 医療水準の向上

総合的医療機能を基盤に、高度・特殊・先駆的医療等を担い、さらに地域医療を担う医師の育成、医療従事者の研修の場としての役割を果たし、地域の医療水準の向上に努めます。

3. 安全な医療

患者に安心と信頼をもたらす医療を提供し、また、職員に希望と誇りを育み、充実して働きやすい職場環境を推進します。

4. 地域医療への貢献

地域の医療機関との連携を密にし、また、救急医療を積極的に推進し、市民に愛され信頼される地域の中核病院としての役割を果たします。

5. 健全経営の確保

自治体病院に期待される健康危機管理機能の強化等の公共性を確保するとともに、合理的かつ効率的な病院経営に努めることにより、健全で自立した経営基盤を確立します。

【岡山市立せのお病院】

- ・医療を受ける人の立場に立ち、心のこもった医療を実践します。
- ・患者の権利を尊重し、満足のいく医療を行います。
- ・健全な病院経営に努め、良質な医療サービスを提供します。
- ・保健、福祉、医療の連携のもとに、安心して生活できる地域づくりを推進します。
- ・職員の医療人としての資質の向上に努めます。

イ. 全体状況

(1) 法人運営の総括

第2期中期計画の最終年となる今年度も、前年度から続く新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という）の影響を受け、数値目標の達成が困難となった項目もあったが、第2期中期目標を達成するため、理事長の指示のもと、新型コロナに関しての県や市からの要請に迅速に対応するための整備や教育を実施しながら各病院の課題に取り組み、概ね目標を達成した。

市民病院においては「断らない救急」の実現のため、新型コロナの影響による救急車応需率の低下への対策として、重症新型コロナ患者と一般重症患者を同時に診療できる体制を整備する目的で、ICUの個室化や病棟再編を行い、重症対応看護師育成の継続等に取り組んだ。また、救急センターにおいては、新型コロナ患者の転院搬送を積極的に受け入れ、最重症患者は岡山大学病院へ転院搬送するなど、地域全体を見据えた対応を実践した。

感染症医療については、岡山市保健所及び岡山県との連絡を緊密に行い、厚生労働省からの通知に迅速に対応して院内体制を構築し、新型コロナの県内発生に対応した。災害医療については各種災害医療研修や訓練は中止となったが、新型コロナに対する重点医療機関として重症患者の受入れや発熱外来の設置により対応した。

せのお病院においては、地域住民にリハビリテーションが継続できる環境を提供するため外来リハビリの体制を充実させ、また、高度医療機器の共同利用等により近隣開業医との連携を深めるなど地域のバックアップ病院としての役割を果たした。さらに、新型コロナに対しては、急性期病院からの新型コロナ回復後の患者の受入れに努め後方支援病院としての役割を果たし、初期救急医療においても、市民病院と新型コロナに関する情報交換を行いながら発熱外来を実施した。

(2) 大項目ごとの特記事項

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

市民病院において、救急医療では、新型コロナの重点医療機関として新型コロナ患者の入院対応及び外来対応を実践した。さらに、重症新型コロナ患者と一般重症患者を同時に診療できるように、集中治療部の個室化工事を行い、重症救急車受入れを改善した。救急センターでは、新型コロナ患者の転院搬送を積極的に受け入れ、最重症患者を岡山大学病院へ転院搬送するなど、地域全体を見据えた対応を実践した。急性期治療終了後の新型コロナ患者の転院も、他院への広報活動が功を奏し、円滑な医療連携ができた。人材育成では、多職種を対象に幅広く教育を実践し、「屋根瓦式教育」の実践も継続した。感染症医療では、岡山市保健所及び岡山県との連絡を緊密に行い、厚生労働省からの通知に迅速に対応して院内体制を構築し、新型コロナの県内発生に対応した。さらに、ゲノム解析も開始し、岡山市内のオミクロン株の変異株動向について保健所に情報を提供した。災害医療では、岡山県の凶上防災訓練への参加や事業継続計画（BCP）に基づく訓練を行ったが、新型コロナの影響により、各種災害医療研修や災害派遣医療チーム（DMAT）の継続的な訓練や新規養成は中止となった。一方、新型コロナに対する重点医療機関として、重症患者の受入れや発熱外来の設置により対応した。小児医療では、小児科医師がER副センター長を兼任しスタッフ育成に注力した。周産期医療では、より安全に出産ができるように分娩時に複数医師が立会える機会を増やした。また、帝王切開例と異常分娩等の場合は、小児科医師の分娩立会いにより実施した。セーフティネットでは、社会的困窮者の受入れに常時対応できる体

制を維持した。救急医療は「断らない救急」を目指した仕組を実践した。感染症医療では、新型コロナに対応する施設整備やスタッフ研修等の強化を行い重点医療機関としての役割を果たした。高度専門医療について、がん治療ではコロナ禍にあっても外来や入院の患者数が前年度の減少から回復傾向が見られた。脳卒中治療では新型コロナ患者IVRにも対応できる体制の維持に努めた。急性心筋梗塞では質の高い治療を実施し、急性期治療が終了した患者には、多職種による包括的心臓リハビリテーションを実施した。糖尿病治療では新型コロナ患者を含む他科との併診糖尿病患者についても、医師同士連携して安全に血糖コントロールを行った。また、新型コロナを懸念して来院できない患者の電話再診や病院からの連絡を実施した。

せのお病院においては、外来リハビリ体制の充実によりリハビリ患者数が増加した。後方支援病院として、急性期病院からの新型コロナ回復後の患者の受入れに努め、初期救急医療でも市民病院と情報交換を行いながら発熱外来を実施した。地域の医療者や在宅支援者が交流できるコミュニティー会議は全てをリモート開催とし、参加者の希望を考慮した講演内容とすることで新規参加者を増やすことができた。

安全・安心な医療の提供については、多職種による医療安全管理室会議や医療安全管理委員会を定期的に開催し改善策等を講じた。院内感染では、感染管理システムを使用し、サーベイランスの強化を行った。新型コロナ対策では、岡山市保健所及び岡山県との連絡を緊密に行い、厚生労働省からの通知に迅速に対応しつつ、院内体制を構築し、職員・患者の管理を徹底し疑似症例の患者や確定患者を受け入れた。

総合的な診療体制の確立については、救急診療と感染症診療の両立をめざし、感染症専用病床の受入体制維持を行い、岡山ERとそこから入院する症例のための機能強化を行い、感染症対策のできる職員を育成した。

医療の標準化の推進については、総合情報システムによるオンライン会議や面会システムの安定運用に努め、診療科でのリモートワーク実現に向けた整備を行った。新しい電子カルテシステムの導入に向け各分野の部会を開催し、患者サービスの低下を招く仕様とならないよう努めた。クリニカルパスでは、積極的に改訂や新規作成も行い、パス使用率も向上した。また、当院の論文が論文奨励賞を受賞し、クリニカルパスに対する啓発活動が学会発刊書籍に掲載された。

調査研究については、販売後調査を義務付けられた新薬については、販売後調査にも積極的に参加した。

患者中心の医療の提供については、インフォームドコンセントでは、患者への確実な履行と質の担保に努めた。医療相談窓口では、患者相談室やがん相談支援センター等で相談を受け付け、多職種カンファレンスにより改善が必要な事項について解決を図った。また、患者との信頼関係構築のために、職員が医療メディエーターの研修を受け、相談対応の質向上に努めた。薬剤管理では、薬剤管理指導件数、無菌製剤処理件数及び外来化学療法件数は、目標値を達成した。さらに、地域の薬局と情報共有を行い、地域の薬剤師と連携することに対して新設された連携充実加算も実施した。患者満足度調査では、入院・外来共に感染対策が評価され高い満足度を維持できた。市民や患者への情報発信では、院外広報誌、ホームページ、フェイスブックやFMラジオ番組出演等により情報発信を実施した。な

お、市民公開講座や患者向け教室は新型コロナで開催を見送ったが、一部の教室では教育内容をwebや資料配布等で公開した。また、岡山市地域ケア総合推進センターと共同開催する「まちかど心不全教室」も実施した。

地域医療ネットワークの推進については、地域医療支援病院として、地域の保健・医療・福祉情報を把握し、地域医療を支援した。急性期治療が終了した患者の在宅復帰や転院調整の支援を院内外の多職種で連携して行った。また、市民病院地域ネットワーク等を活用した空床情報共有やカルナコネクト（インターネットによる患者受診予約システム）の普及にも努め、一定数の予約件数を維持した。

医師不足が深刻な地域の医療機関への医師派遣では、岡山市内外の医療機関へ若い医師（研修医）を中心に派遣し、将来の地域医療を担う医師の人材育成に努めた。特に福渡病院は、医師派遣回数を増やした。

教育及び人材育成については、連携大学院制度において大学病院との連携を深め、各種講座を維持し、引き続き救急医療現場での人材育成体制を強化した。組織体制では、人材開発室（人材開発センターから事業引継ぎ）を中心に階層別にキャリアに応じた研修を開始した。

保健医療福祉行政への協力については、地域ケア総合推進センターと定例会議を実施し、市民向けの患者教室開催や退院支援職員研修への協力等、協働で事業を実施した。市民の疾病予防の取組では、新型コロナの影響により市民公開講座は開催できなかったが、定期刊行雑誌に疾病予防等を掲載した。また、フェイスブック等で情報発信を行い、webマガジンの計画準備を開始した。

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

法人経営については、新型コロナに関しては県や市からの要請に迅速に対応するための整備や教育を実施しながら、各病院の課題に取り組んだ。市民病院では、新型コロナ患者の受入れと通常の急性期医療への対応の両立を目指し、ICUの個室化や病棟再編、また重症対応看護師育成の継続等に取り組んだ。せのお病院では、地域医療の実践病院として訪問診療に加え、訪問リハビリテーションを行う準備を開始し、コロナ禍による面会制限への対応としてオンライン面会やオンラインによる退院調整を行った。多様な人材の確保では、初期臨床研修医のマッチングは10名フルマッチした。看護師は、経験者の確保のため経験者採用試験も実施した。事務職員は、医事職員を中心としMSWを採用した。新型コロナの影響によりwebでの採用試験実施等により多数の応募者があり、採用数を十分に達成し体制を整えることができた。外部機能評価の活用では、業務運営の改善に向けて、マニュアルの見直しや業務の改善に取り組んだ。

研修制度の充実及び資格取得への支援では、看護師特定行為研修について令和3年4月から市民病院内にセンターを開設し研修修了者は3名となった。人事評価制度では、評価研修を動画と資料を使用して実施し、例年どおりの人事評価を行った。職場環境の整備では、新型コロナ拡大に伴う診療体制の変更により、看護師を中途採用し増員した。また新型コロナ関連手当の増額等業務負担に対して適正に対応した。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

持続可能な経営基盤の確立については、前年度に引き続き新型コロナの影響により新入院患者数等は目標を大きく下回ったが、平均在院日数の年度目標達成や新型コロナ対応と一般救急体制維持の両立等を行い、さらに、空床補償等の新型コロナ関連補助金による収益を確保できたことにより、大幅な黒字を達成した。収入の確保及び費用の節減では、新型コロナ対応による病床制限のため一般病床数350床の運用となり、病床稼働率は年度目標を大きく下回ったが、新型コロナと通常診療の両立を図るために医療機器の投入や人材の教育に力を入れ、入院収益は前年度に比べ7.9%増加した。費用では、人件費が新型コロナ関連手当や人材の追加採用等により増加したが、医業収益も増加した事もあり、給与費比率は年度計画目標値を達成した。未収金対策では、各種制度の活用により患者負担を最小限にすることで未収金の発生を未然に防止するとともに、発生した未収金は定期的な催促を行い、さらに弁護士による債権回収委託を活用し回収を図った。

第4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置

市民の健康に寄与する取組として、新たに「まちかど心不全教室」を隣接する健康・医療・福祉系施設で岡山市地域ケア総合推進センターと共催した。

(3) 今後の展望

第3期中期目標期間（令和4～7年度）に向けては、これまでに整備、充実してきた組織基盤や医療機能等を継続し、医療環境の変化にも適切に対応し、質の高い医療サービスの提供を行うとともに、効率的な病院経営を行うことで引き続き地域医療に貢献し、災

害や新興感染症等への対応等、自治体病院としての使命を果たすことを目指していく。

ウ. 小項目評価結果

第1 市民に対して提供するサービスその他の業務の質の向上に関する目標を達成するためとるべき措置

1 市立病院として特に担うべき医療

(1) 市民病院

中期目標

救急医療等市民に必要とされる医療や、がん、脳卒中、急性心筋梗塞等高度で専門性の高い医療を安定的に提供するとともに、糖尿病関連疾患をはじめとした予防医療にも力を入れ、他の医療機関等との役割分担や連携を図ることにより、市民の生命と健康を守ること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価																																	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																																
<p>救急医療等市民に必要とされる医療、がん、脳卒中、急性心筋梗塞といった高度で専門性の高い医療を安定的に提供するとともに、糖尿病関連疾患をはじめとした予防医療にも力を入れ、地域の医療機関等と役割分担や連携を促進し、市民の生命と健康を守る。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>26,000人</td> </tr> <tr> <td>救急要請応需率※ (救急車搬送受入率)</td> <td>90.0%</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>4,500件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※救急要請応需率については、他の救急病院での受入れがその患者にとって最適な医療の提供となる場合及び現場への過度な負担となるリスクの回避を考慮して、</p>	項目	令和3年度目標	救急患者数	26,000人	救急要請応需率※ (救急車搬送受入率)	90.0%	手術件数	4,500件	<p>救急医療等市民に必要とされる医療、がん、脳卒中、急性心筋梗塞といった高度で専門性の高い医療を安定的に提供するとともに、糖尿病関連疾患をはじめとした予防医療にも力を入れ、地域の医療機関等と役割分担や連携を促進し、市民の生命と健康を守る。</p> <p>また、昨年度に引き続き新型コロナウイルス感染症（以下、「新型コロナ」という。）重点医療機関として患者を受け入れ、市民病院の役割を果たす。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>26,000人</td> </tr> <tr> <td>救急要請応需率 (救急車搬送受入率)</td> <td>90.0%</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>4,500件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和3年度目標	救急患者数	26,000人	救急要請応需率 (救急車搬送受入率)	90.0%	手術件数	4,500件	<p>【実績値：市民病院】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>平成元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>救急患者数</td> <td>28,263人</td> <td>21,640人</td> <td>26,910人</td> </tr> <tr> <td>救急要請応需率 (救急車搬送受入率)</td> <td>91.8%</td> <td>85.8%</td> <td>80.0%</td> </tr> <tr> <td>手術件数</td> <td>4,716件</td> <td>4,131件</td> <td>4,243件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	平成元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	救急患者数	28,263人	21,640人	26,910人	救急要請応需率 (救急車搬送受入率)	91.8%	85.8%	80.0%	手術件数	4,716件	4,131件	4,243件	—	—	
項目	令和3年度目標																																				
救急患者数	26,000人																																				
救急要請応需率※ (救急車搬送受入率)	90.0%																																				
手術件数	4,500件																																				
項目	令和3年度目標																																				
救急患者数	26,000人																																				
救急要請応需率 (救急車搬送受入率)	90.0%																																				
手術件数	4,500件																																				
項目	平成元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																		
救急患者数	28,263人	21,640人	26,910人																																		
救急要請応需率 (救急車搬送受入率)	91.8%	85.8%	80.0%																																		
手術件数	4,716件	4,131件	4,243件																																		

第1期中期目標を上回る水準を目標値としている。

【関連指標：平成28年度実績】

項目		市民病院
救急車搬送受入件数		4,159件
救急からの入院患者の割合 ※		24.1%
入院患者数	がん	1,453人
	脳卒中	459人
	急性心筋梗塞	51人
	糖尿病	172人

※救急からの入院患者の割合＝救急からの入院患者数／救急患者数（救急車含む。）×100

【関連指標：令和元年度実績】

項目		市民病院
救急車搬送受入件数		4,817件
救急からの入院患者の割合 ※		20.4%
入院患者数	がん	1,592人
	脳卒中	528人
	急性心筋梗塞	47人
	糖尿病	150人

※救急からの入院患者の割合＝救急からの入院患者数／救急患者数（救急車含む。）×100

【関連指標：市民病院】

項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	
救急車搬送受入件数	4,817件	4,069件	4,067件	
救急からの入院患者の割合 ※	20.4%	24.6%	23.4%	
入院患者数	がん	1,592人	1,481人	1,585人
	脳卒中	528人	507人	431人
	急性心筋梗塞	47人	62人	59人
	糖尿病	150人	103人	60人

※救急からの入院患者の割合＝救急からの入院患者数／救急患者数（救急車含む。）×100

中期目標	ア 市民病院は、24時間365日全ての症状の患者を受け入れる岡山ERの円滑な実施により、市民が安心できる救急医療を提供するとともに、岡山ERでの救急初期診療後は他の医療機関に引き継ぐコーディネート（転送・転院・紹介）を積極的に行うこと。また、救急医療機関のひとつとして、地域における救急医療の一翼を担うとともに、各医療機関の役割分担と連携を促進し、地域医療ネットワーク全体で救急医療を支える体制づくりに貢献すること。
------	--

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>ア 市民病院は、岡山ERとして24時間365日救急対応する体制を確立し、軽症の自力受診（walk in）患者から重症の救急搬送患者、さらには他の医療機関で受入困難とされた患者まで、全ての症状の救急患者の受入れを目指す。</p> <p>受け入れた救急患者は救急初期診療の後、院内の専門治療部門に引き継ぐとともに、患者の症状に応じてコーディネート（転送・転院・紹介）機能を発揮することで、3次救急医療機関の岡山大学病院をはじめとする地域の医療機関との密な連携を促進する。そのために、救急専門医、トリアージナース等救急医療を担う必要な人材を確保し、さらに、岡山大学等との連携のもとでこれらの人材を育成し、地域へ輩出する役割を果たす。</p>	<p>ア 市民病院では、新型コロナの重点医療機関として、新型コロナ患者の受入れを行うとともに、新型コロナ患者数に合わせたベッドコントロールを行い、救急受入体制の維持に努める。</p> <p>また、救急センターにおける新型コロナ感染防止対策を徹底する。</p> <p>新型コロナ禍でも断らない救急を維持するため、急性期を過ぎた患者の受入れについて、新型コロナ患者も含めスムーズに行えるよう、後方医療機関に対しウェブセミナーや広報活動等に積極的に取り組む。</p> <p>人材育成に関しては、「屋根瓦式教育」を継続していく。特に初期研修医に対しては、今後重要となる感染症に対して安全に診療ができる教育も実施する。</p> <p>また、集中治療に関わる教育を充実することで、新型コロナ重症患者にもより適切な診療・看護をできるようにする。</p> <p>なお、新型コロナ後を見据えた体制も整備し、救急応需率を上げる。</p>	<p>ア 新型コロナの蔓延が続く中、新型コロナの重点医療機関として軽症から重症まで新型コロナ患者の入院対応及び外来対応を実践した。</p> <p>新型コロナは収束の目途が立たないため、新型コロナ患者数の増減に合わせて一般救急患者の受入れを最大限行った。特に調整が困難であった令和3年7月から9月のデルタ株蔓延期には、重症新型コロナ患者の増加により一般重症救急患者への対応に影響をもち、救急車応需率は低迷した。そこで重症新型コロナ患者と一般重症患者を同時に診療できる体制を整備する目的で、令和4年2月から1ヶ月間、集中治療室の陰圧2床の個室化工事を行い、工事終了後から重症救急車受入れは改善した。</p> <p>さらに、新型コロナ患者に関しては、積極的に転院搬送を受け入れ、ECMO 適応となる最重症患者を岡山大学病院へ転院搬送するなど、地域全体を見据えた対応を実践した。</p> <p>救急センターにおいては前年度に行った陰圧工事や感染患者対応に必要な物品の整備により、新型コロナを疑うwalk inの患者へ積極的に対応でき、救急患者数は増加し目標値に到達した。また、前年度と同様に発熱患者には院外に設置したテントも活用しPCR検査を実践した。</p> <p>前方連携に関しては、コロナ蔓延期においても積極的な受入れを行い、救急からの入院患者割合は高水準で維持した。また、後方連携に関しては、コロナ禍前の状況へと近づいてきた。特に、急性期治療を終了した新型コロナ患者の他院への転院に関しては、他院への広報活動が功を奏し、前年度よりも円滑な連携ができた。救急患者の症状</p>	A	S	<p>重症コロナ患者の増加などの影響により救急要請応需率が低下したものの、集中治療室工事等の新型コロナ・一般救急の両立に向けた取組により、応需率は年度末には改善に転じている。新型コロナを疑うwalk in患者にも積極的に対応し、救急患者数は目標数に達しているほか、他院との連携強化や集中治療・感染症教育の充実など、救急医療体制の整備に取り組んでおり非常に高く評価できる。</p>

に応じたコーディネート機能の充実については、新型コロナ蔓延により中断していたが、院外向けの勉強会や他院への訪問による打ち合わせも再開し、連携の再構築にむけた準備を開始した。

人材育成に関しては、医学生、研修医、救急救命士、看護師、看護学生を対象に幅広く教育を実践した。教育担当者を明確にすること、「屋根瓦式教育」を実践することも継続できた。特に、当院は新型コロナ患者を積極的に受け入れていることから、感染症患者についての医学教育を従来よりも実施できた。集合研修に関しては、今年度は徐々に再開し、院外からの参加者がある研修に関してもwebを活用して開催した。また、集中治療に関わる教育を充実し、適切な診療・看護をできるように図った。

【目標値】 ※再掲

項目	令和3年度目標
救急患者数	26,000人
救急要請応需率 (救急車搬送受入率)	90.0%

【関連指標：令和元年度実績】 ※再掲

項目	市民病院
救急車搬送受入件数	4,817件
救急からの入院患者の割合 ※	20.4%

※救急からの入院患者の割合＝救急からの入院患者数／救急患者数（救急車含む。）×100

【実績値：市民病院】 ※再掲

項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
救急患者数	28,263人	21,640人	26,910人
救急要請応需率 (救急車搬送受入率)	91.8%	85.8%	80.0%

【関連指標：市民病院】 ※再掲

項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績
救急車搬送受入件数	4,817件	4,069件	4,067件
救急からの入院患者の割合 ※	20.4%	24.6%	23.4%

※救急からの入院患者の割合＝救急からの入院患者数／救急患者数（救急車含む。）×100

中期目標	イ 第二種感染症指定医療機関として、引き続き現在の役割を果たすこと。また、新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、感染症指定医療機関として先導的かつ中核的な役割を果たすこと。
------	--

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
イ 感染症医療について、第二種感染症指定医療機関として、感染症患者を常時受け入れられる体制を堅持し、特に二類感染症、新型インフルエンザ等の感染症発生時においては、地域で先導的かつ中核的な役割を担う。	<p>イ 令和2年2月1日に政令で二類感染症に指定された新型コロナについては、その後の感染の拡大・蔓延により指定病床数を超えての対応が必要になり、岡山市保健所及び岡山県との連絡を緊密に行い、厚生労働省からの通知に迅速に対応し、院内体制を構築し県内発生に対応したが、令和3年度も引き続き重点医療機関としての応需体制を堅持する。</p> <p>また、その他の二類感染症や新型インフルエンザ等の感染症発生時には、岡山県、岡山市との連携の下で、備前保健所、岡山市保健所と協力体制を図り、地域で先導的かつ中核的な役割を担う。このために、平時より保健所等の行政と協力し、必要な会議には積極的に参加し、体制の維持や訓練等を通じて機能強化を図る。</p>	<p>イ 新型コロナについては、岡山市保健所及び岡山県との連絡を緊密に行い、入院が必要な症例や診断が必要な症例については要請に全て対応した。厚生労働省からの通知に迅速に対応して院内体制を構築し、県内発生に対して最新の通知に即して対応した。また、マスコミ対応を徹底し、必要に応じて市民への啓発や注意喚起を行った。ワクチン事業にも積極的に参加し、個別接種や集団接種への医師の派遣等に応需し、行政のワクチン在庫・管理センターとしての責務も果たした。</p> <p>新型コロナの重点医療機関として、受入れのための追加の設備工事、検査機器の整備、体制の構築等を行い、行政の要請に対応した。県下最大数の陽性患者を受け入れ、海外への渡航目的での迅速検査にも対応した。また中四国の病院で唯一のゲノム解析も開始し、岡山市内のオミクロン株の変異株動向について保健所に情報を提供した。</p>	S	S	<p>前年度に引き続き、新型コロナ重点医療機関として新型コロナ患者受入の中心的な役割を果たしたほか、ワクチン事業への積極参加、ゲノム解析による変異株に関する情報提供など、予防・行政協力の分野でも大きく貢献しており、非常に高く評価できる。</p>

中期目標	ウ 地域災害拠点病院として、災害その他緊急時に迅速かつ適切な医療提供のできる拠点機能を確保するとともに、大規模災害に備え、傷病者の受入れや災害派遣等の医療救護が実施できる体制を構築すること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>ウ 災害医療について、災害医療研修、災害医療救護訓練を積極的に実施する。また、地域災害拠点病院として災害発生時に迅速な派遣・受入対応ができる体制を整備するとともに、災害発生時の適切な医療活動に備えた医薬品、水、食料等の備蓄や諸設備の維持管理を行う。</p> <p>これまで同様に他の自治体等において大規模災害が発生した場合は関係機関や被災した医療機関等との連携を図るなどの確に医療救護活動の支援に努める。また、災害派遣医療チーム（DMAT）や医療救護班の体制も維持する。</p>	<p>ウ 災害発生時には迅速に派遣、受入対応ができるように院内の事業継続計画（BCP）に基づく訓練を実施する。また、災害医療研修、災害医療救護訓練等を積極的に実施する。</p> <p>さらに、災害発生時の医療活動に備えた医薬品、水、食料等の備蓄や諸設備の維持管理も行うとともに、災害派遣医療チーム（DMAT）や医療救護班の体制も維持する。</p> <p>令和3年度には、岡山県災害拠点病院医療救護要員研修会を当院で開催する。</p>	<p>ウ 岡山県が実施する図上防災訓練に参加するとともに、市民病院における事業継続計画（BCP）に基づき、訓練を行った。また、災害発生時の医療活動に備えた医薬品、水、食料等の備蓄等の維持管理を行った。</p> <p>しかし、新型コロナの拡大により、職員のスキルアップを図るための多数傷病者への医療対応標準化トレーニングコース（MCLS）等の災害医療研修、災害派遣医療チーム（DMAT）隊員の継続的な訓練、新規DMAT隊員の養成は一部中止となった。また、岡山県が開催する岡山県災害拠点病院医療救護要員研修会も当院で開催する予定であったが延期となった。</p> <p>一方、新型コロナに対する重点医療機関として、重症患者の受入れ、発熱外来の設置を行い対応した。</p>	B	B	<p>前年度に引き続き、新型コロナの影響によりMCLSやDMAT訓練等が中止され参加できなかったが、市民病院でのBCP訓練や災害備蓄の管理の実施状況から、概ね計画どおりと評価する。</p>

中期目標		エ 小児・周産期に係る地域の医療提供の状況を踏まえ、地域医療機関との連携及び役割分担を行うことにより、安心して子どもを産み育てられる小児・周産期医療を提供すること。			
中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>エ 小児医療においては、一般の小児医療を担う役割を果たすため、周産期医療においては、周産期医療を取り巻く状況や医療提供の変化を踏まえ、自治体病院の産婦人科としての役割を果たすため、小児・周産期医療に必要な医療従事者を確保、維持する。</p> <p>また、小児医療について、小児の重症疾患やハイリスク出産等は高度・専門医療機関に搬送するなど地域医療機関と連携し、安心して子どもを産み育てられる医療を提供する。周産期医療については、助産師外来や産後ケアの充実を図り、分娩時以外の妊婦（母体）の健康管理を担うとともに、マタニティセンターにより妊娠から出産までの一連の対応についてトータルコーディネートしていく。</p>	<p>エ 小児医療については、安心して子どもを産み育てられる医療を提供するため、一般及びアレルギー等の小児専門診療を維持しつつ、さらに周辺医療機関との連携を深め、地域医療に貢献する。</p> <p>また、ERと協働して小児救急にも対応するが、重症疾患等については、高度専門医療機関にコーディネートできるようにする。</p> <p>周産期医療については、自治体病院としての役割をさらに果たすとともに、当院で対応できる合併症妊婦の対象を拡大すべく、他科との協同診療を進める。重症合併症妊婦においては、高度専門医療機関にコーディネートする。</p> <p>また、マタニティセンターにより妊娠から出産・育児まで、精神的・経済的な事も含めトータルコーディネートしていく。</p> <p>小児科、産婦人科において、職務に必要な情報収集、資格取得のため、幅広い研修会、学会等への参加及び発表機会を持つとともに、研修会を開催することにより、更なるスキルアップを図る。</p>	<p>エ 小児医療については、小児科常勤医師3名（アレルギー専門医2名（指導医1名）、小児リウマチ専門医1名、血液専門医1名）の体制を維持した。</p> <p>専門診療では、コロナ禍の中、主としてアレルギー外来で延べ1,200人超、食物負荷検査も約200例を維持しながら周辺医療機関との連携をさらに進めた。</p> <p>前年度に引き続き小児科医師がER副センター長を兼任し、スタッフ育成に注力した。</p> <p>病的新生児、重症疾患等は岡山医療センター及び岡山赤十字病院等に搬送し適切に対応した。</p> <p>また、学校関係者向けの講演等を行い、地域への情報提供にも取り組んだ。</p> <p>周産期医療については、産科医師は体制を維持し、分娩時も複数医師が立ち会える機会が増えたため、より安全に出産ができた。小児科医師の増員は無かったが、帝王切開と異常分娩が予想されるケースではほぼ全例小児科医師の分娩立ち会いを実施した。</p> <p>ハイリスク妊婦の対応については高度医療機関との連携を強化し、母体搬送や急性期後の逆紹介等もスムーズに行なった。</p> <p>マタニティセンターでは、医師による妊婦健診後に助産師が行う妊婦指導は全妊婦が対象で、医療面・経済面・生活面等あらゆる方面の問題点を抽出して対応をし、より安全安心な出産・育児に大きく貢献した。また、患者の正常分娩後の肉体疲労や育児不安等を解消する目的で産後ケア入院を継続し、患者の産後の不安を解消することができた。</p> <p>新型コロナの影響で全国的に分娩数は減少傾向に有り、当院も98件と前年度から増加にはならなかった。</p>	B	B	<p>診療・分娩・産後ケア等については計画どおり取り組んでいる。また、コロナ禍にあっても研究会やウェブ会議を活用しスキルアップを図っていることも評価できる。</p>

		医師のスキルアップについては、新型コロナの影響により市民病院では開催できなかったが、小児科医師3名全員が学会又は研究会へ参加し自己研鑽を行った。また、産婦人科医については学会・研究会等への出席・発表の機会が新型コロナの影響により減ったものの、web会議等を利用することで必要な情報収集や資格取得への影響を抑えることができた。			
--	--	--	--	--	--

中期目標		オ 市民のためのセーフティネット機能を果たすため、必要な診療基盤を備え、地域医療の中で十分な対応が難しい医療を提供すること。			
中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>オ 市民のためのセーフティネット機能を果たすため、患者が抱えるさまざまな状況に配慮した診療体制をより一層充実させる。</p> <p>また、これまで以上に結核、感染症、確実に対応する救急等市民に必要とされる医療及び市内の医療提供体制の中で十分な対応が難しい医療の提供に努める。</p>	<p>オ 市民のためのセーフティネット機能を果たすため、患者が抱えるさまざまな状況に配慮した診療体制を充実させ、法令の改正や地域医療体制の変化にも柔軟に対応し、市民に必要とされる医療の提供に継続して努める。</p> <p>新型コロナに対しては、重点医療機関としての役割を果たし、連携医療機関とも協力して地域を支えていく。</p>	<p>オ 社会的困窮者の受入れに常時対応できるよう医療ソーシャルワーカーを配置し、セーフティネット機能を果たした。</p> <p>それ以外のセーフティネット機能として、救急や感染症について常時対応できる救急医の確保を行った。</p> <p>救急医療については、新型コロナ対応のための病棟閉鎖に伴う病床満床や複数の救急患者への対応等により、救急の応需に制限が生じる場合があったが、「断らない救急」を目指し救急疾患の短期入院やERから直接他院へ転院する仕組み等を実践した。</p> <p>感染症医療については、新型コロナ対応のため、重症病床の整備、陰圧病床の拡充等ハード面での感染対策の強化やスタッフの研修等ソフト面の強化を行うなどの対策を講じ、新型コロナの重点医療機関としての役割を果たした。</p>	A	A	<p>医療ソーシャルワーカーを配置し相談体制を維持しているほか、救急医療・感染症医療の面では、医師確保やERからの直接転院などの救急医療提供体制の実践、新型コロナ対応のためのハード・ソフト両面の強化に取り組んでおり、高く評価できる。</p>

中期目標	カ がん診療連携推進病院として、引き続き質の高いがん診療機能を提供するとともに、市民の健康を守る上で重要な脳卒中、急性心筋梗塞等の治療に取り組み、高度で専門性の高い医療及び糖尿病疾患等の予防医療についても安定的に提供すること。				
中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>カ 高度専門医療 〔がん〕</p> <p>がん診療連携推進病院として、科学的な知見に基づき、手術、化学療法及び放射線治療法を効果的に組み合わせた集学的医療を提供し、地域のがん診療の連携協力体制の強化に努める。また、がん診療の質的向上に努めるとともに、地域の医療機関と連携、役割分担のもと、がん患者の生活に根差した情報提供等を行う。加えて、がん治療サポートセンターとPFMセンターとの連携によるがん患者に対する入院から退院までの相談支援も充実させていき、治療後の在宅復帰後については、がんリハビリテーションにより支援していく。</p> <p>さらに、市が実施するがん対策等に関する施策に協力し、がん予防に寄与する。</p> <p>〔脳卒中〕</p> <p>脳卒中に対しては、脳神経外科、神経内科、リハビリテーション科を中心として多職種が協働する脳疾患センターとして対応し、それぞれの専門性をいかした高度な医療を提供する。岡山ERと連携してより多くの重症患者を積極的に受け入れ、早期の急性期リハ</p>	<p>カ 高度専門医療 〔がん〕</p> <p>令和3年度は引き続き新型コロナ対策を行いつつ、がん患者を多く受け入れるとともに、がん診療連携推進病院として、診断から緩和ケアまで包括的ながん診療を行う。手術療法、化学療法を中心とした集学的治療を提供するとともに、高度専門的な治療を行う。さらに高度専門的な治療が必要な患者に対しては、高度専門医療機関と連携して診療を行う。特に歯科との連携を強化し、院内の研修も実施し、がん緩和ケア等の充実を図る。</p> <p>また、がん治療サポートセンターと入退院管理支援センターとの連携、がんリハビリテーションによる退院後の支援も引き続き充実させていく。</p> <p>さらに、新型コロナの蔓延状況にもよるが、市民に対しても公開講座等により、がんに対する啓発を図る。</p> <p>〔脳卒中〕</p> <p>脳卒中患者を積極的に受け入れ、手術室、ER、IVRセンター、ICU・HCUを活用し、より多くの手術及び血管内治療を行う。</p> <p>また、早期の急性期リハビリテーションを実施する。新型コロナ蔓延下にあってもこれらの脳卒中医療の安定し</p>	<p>カ 高度専門医療 〔がん〕</p> <p>新型コロナの流行下でも、がん患者の外来紹介、全体の外来や入院数は前年度の減少から回復してきている。前年度に引き続き、必要な手術療法や化学療法では新型コロナの感染予防等を徹底し、より安全に患者に治療を行う事ができた。緩和ケアについても感染予防策を取りつつ、患者に寄り添う形の治療を行う事ができた。</p> <p>2月にはweb形式による「妊孕性温存環境整備研修」を岡山県・岡山大学と連携し開催し、多くの医師、医療従事者が参加した。</p> <p>がん治療サポートセンターと入退院管理支援センターとの連携、がんリハビリテーションによる退院後の支援も充実させるように努めた。</p> <p>新型コロナの影響によりがんサポートセンター主催の市民公開講座は開催できなかったが、前年度から継続して、ホームページにがんの臨床指標を載せ、市民にも実績がわかるようにした。</p> <p>〔脳卒中〕</p> <p>前年度同様、新型コロナの流行による当院の病床数制限や救急受入制限等、当院の脳卒中診療は様々な制約下での対応を余儀なくされたが、その中でも、院内の多職種協働による新型コロナ患者IVRにも対応できる体制の維持に努めた。</p> <p>脳神経外科及び神経内科への入院患者数はコロナ禍以前の令和元年度以降減少が続いており、脳卒中の入</p>	A	A	<p>がん、脳卒中、急性心筋梗塞及び糖尿病の各分野において新型コロナの感染対策をとりつつ、質の高い医療の提供を継続している。脳卒中分野では令和2年度に委嘱されたPSCコア施設としての活動を継続したほか、糖尿病分野では電話再診の活用等によりコロナ禍での治療継続に取り組んでいることも高く評価できる。</p>

<p>ビリテーションを実施し、治療後は地域の医療機関と連携して、患者が早期に自立できるよう支援する。</p>	<p>た提供を行う。 一般社団法人日本脳卒中学会より委嘱を受けた一次脳卒中センターコア施設（脳血栓回収療法適応患者を24時間365日受け入れる施設）として、引き続き岡山市内の脳卒中診療の要としての責務を果たしていく。</p>	<p>院患者数（2.1%減）及び手術件数（10.1%減）等の治療実績も減少した。 リハビリテーション（リハ）については、土曜日のリハ、ICUにおける早期リハ、感染症対応のセラピストチームによる新型コロナ患者の早期リハの実施を継続したが、感染拡大期における実施制限等により、脳血管リハの診療報酬についても前年度実績から17.1%の減少となった。 当院は、令和元年9月に一般社団法人日本脳卒中学会の一次脳卒中センター（PSC）に認定されており、さらに令和2年10月には、血栓回収療法を必要とする患者を常時受け入れる、岡山県南東部医療圏で唯一のPSCコア施設としての活動を委嘱されている。これは当院の血栓回収療法の施行数や脳血管内治療専門医数等を元に決定されたものであり、コロナ禍においても、岡山県南東部の脳卒中診療における当院の社会的責務は高くなっている。</p>			
<p>〔急性心筋梗塞〕 常時、救急患者の一次診療を確実に実施できる体制強化を図る。外科的治療や高度専門医療が必要な患者に対しては、地域の高度医療機関と連携した診療を、それ以外の患者には医師、看護師及びコメディカル等で組んだチームによる早期の急性期リハビリテーションを、治療後は地域の回復期リハビリ施設と連携した患者の早期自立支援を、これまで以上に円滑に実施していくように努める。</p>	<p>〔急性心筋梗塞〕 重症患者を積極的に受け入れ、治療までの時間を最大限短縮するシステムを維持する。 定期的に地域の心臓血管外科医とカンファレンスを行い、遅滞なく外科治療を行えるよう努める。 また、治療後は多職種チームにより早期の急性期リハビリテーションを実施し、患者が早期に自立できる支援体制も維持する。</p>	<p>〔急性心筋梗塞〕 緊急カテーテル検査・治療については、全てに遅滞なく対応し、質の高い治療を実施した。日本循環器学会が定めたガイドラインに沿い、ほぼ来院から90分以内に緊急冠動脈形成術の治療ができた。 地域の心臓血管外科の医師と定期的にカンファレンスを行い、外科的治療（冠動脈バイパス手術等）が必要な患者については、迅速に連携し、転送して治療を行った。 急性期治療が終了した患者については、合併症の予防と早期退院を進めるため、多職種による包括的心臓リハビリテーションを実施した。また、地域連携パスの活用等地域のかかりつけ医との連携強化に努め、患者が早期に自立できるシームレスな支援を行った。</p>			
<p>〔糖尿病〕</p>	<p>〔糖尿病〕</p>	<p>〔糖尿病〕</p>			

<p>診断等の初期診療から合併症を伴う急性増悪時における治療まで対応できる専門診療体制をより一層充実させる。安定治療期間においては、地域の医療機関とこれまで以上に緊密に連携して、患者の健康を管理する。</p>	<p>感染症・高血糖昏睡・低血糖昏睡等の救急救命を要する合併症を持つ糖尿病患者の医療、初期、悪化時の病型診断と糖尿病治療（食事療法、運動療法、薬物療法）の開始、変更、合併症の精査と治療、心理的支援及び眼底出血、腎症、神経障害合併等、急性増悪時における治療を専門診療体制により実施する。</p> <p>地域の医療機関とは、安定治療期間の患者の健康管理や症例検討の実施等により、緊密な連携を図る。</p>	<p>糖尿病専門医3人体制で夜間・休日の当番を決め、365日院内の回診を行った。この回診により糖尿病内科の患者のみでなく、新型コロナ患者を含む他科との併診の糖尿病患者についても、医師同士連携して安全に血糖コントロールを行った。</p> <p>栄養指導、透析予防指導や心理相談等により、専門性の高いチーム医療の提供及び患者教育を継続して行った。高度で専門的なチーム医療を強化するため、糖尿病入院、透析予防指導及び糖尿病心理カンファレンスを多職種で継続して実施した。</p> <p>今年度も新型コロナへの恐怖心のため来院できない患者が見受けられたため、通院中の糖尿病患者に対し、来院の代替手段として電話再診を継続して行った。</p> <p>糖尿病の治療継続を促進するために、来院しなかった患者には、病院から連絡して予約の取り直しや他院への紹介等を行った。患者に安心して受診してもらうために、フェイスシールド・マスク・手洗い・清拭等の感染対策を徹底し、病院の感染対策への取組を説明した。特に不安の強い患者には、臨床心理士による心理相談を実施した。</p> <p>診療所訪問はできなかったが、これまでに培った地域の病院・診療所との信頼関係を維持し、紹介状と電話連絡を用いて連携しチーム医療を行った。</p> <p>【関連指標：市民病院】※再掲</p> <table border="1" data-bbox="987 1091 1563 1362"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="4">入院患者数</td> <td>がん</td> <td>1,592人</td> <td>1,481人</td> <td>1,585人</td> </tr> <tr> <td>脳卒中</td> <td>528人</td> <td>507人</td> <td>431人</td> </tr> <tr> <td>急性心筋梗塞</td> <td>47人</td> <td>62人</td> <td>59人</td> </tr> <tr> <td>糖尿病</td> <td>150人</td> <td>103人</td> <td>60人</td> </tr> </tbody> </table>	項目		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	入院患者数	がん	1,592人	1,481人	1,585人	脳卒中	528人	507人	431人	急性心筋梗塞	47人	62人	59人	糖尿病	150人	103人	60人			
項目		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																							
入院患者数	がん	1,592人	1,481人	1,585人																							
	脳卒中	528人	507人	431人																							
	急性心筋梗塞	47人	62人	59人																							
	糖尿病	150人	103人	60人																							

【糖尿病の外来患者数】

項目		令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績
外来 患者 数	延患者数	36,485人	28,861人	38,765人
	実患者数	4,304人	3,829人	5,409人

※糖尿病で外来受診した患者数でなく、外来受診した患者数
のうち、糖尿病の病名が登録してあった患者数。

**【インスリンポンプ（C S I I）とパーソナル持続血
糖測定器付きインスリンポンプ（S A P）使用者数】**

項目	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績
C S I I	6人	6人	5人
S A P	8人	7人	7人

(2) せのお病院

中期目標

市民病院をはじめとした高度専門医療を担っている病院や周辺地域の保健医療福祉関係機関と密接に連携することにより、周辺地域の中心的な役割を担う病院として医療サービスを提供するとともに、地域包括ケアの充実に貢献すること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
市民病院をはじめとした高度専門医療を担っている病院や周辺地域の保健医療福祉関係機関と連携し、地域住民の生命と健康を守るために地域全体で円滑に対応できる医療環境の充実に貢献する。	市民病院をはじめとする急性期病院等から、急性期経過後の患者の受入れや、在宅や介護施設等から、急性増悪した患者の受入れを行う。そして、本人や家族の意思を尊重した退院支援の充実に図り、地域包括ケアに貢献する。 また、災害時には地域住民を守るため、当院の役割を果たす。		—	—	

中期目標

ア 周辺地域の中心的な役割を担う病院として地域住民に必要とされる医療を提供する役割を果たすこと。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価																																										
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																																									
<p>ア 地域住民が、住み慣れた地域で安心して暮らせる医療環境を確保するために、地域の医療機関と連携しながら、適切な医療を提供する。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率 ※1</td> <td>40.0%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率 ※2</td> <td>57.0%</td> </tr> <tr> <td>病棟カンファレンス</td> <td>380回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 紹介率＝（紹介患者数／初診患者数）×100 ※2 逆紹介率＝（逆紹介患者数／初診患者数）×100 ※紹介率については、市民病院からの紹介患者の増加を見込んだ目標値としている。（同一法人内の紹介患者は対象に含まれない。）</p>	項目	令和3年度目標	紹介率 ※1	40.0%	逆紹介率 ※2	57.0%	病棟カンファレンス	380回	<p>ア 急性期治療を終えた患者の受入れをするとともに、訪問診療や外来リハビリの充実を図る。</p> <p>また、高度医療機器（CT・MRI（令和2年度最新式に改造））や入院施設を共同利用することで近隣の開業医との連携を深め、地域のバックアップ病院としての役割を果たしていく。</p> <p>患者が安心して住み慣れた地域で継続的に暮らせるよう、病棟カンファレンスやリハビリカンファレンスを計画的に行い、医療・介護・福祉のコーディネートをする。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率 ※1</td> <td>40.0%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率 ※2</td> <td>57.0%</td> </tr> <tr> <td>病棟カンファレンス</td> <td>380回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 紹介率＝（紹介患者数／初診患者数）×100 ※2 逆紹介率＝（逆紹介患者数／初診患者数）×100</p>	項目	令和3年度目標	紹介率 ※1	40.0%	逆紹介率 ※2	57.0%	病棟カンファレンス	380回	<p>ア 在宅療養者を対象とした訪問診療を定期的に行った。また、地域住民に対しリハビリが継続できる環境を提供するため、外来リハビリの体制を充実させたことで外来リハビリの延べ患者数は令和元年度67人、令和2年度592人、令和3年度1,205人と増加した。</p> <p>MRIは令和2年7月に機器を更新して以降、繰り返し共同利用をする医療機関が増えており、令和元年度730件、令和2年度703件、令和3年度942件と総利用件数が増加している。</p> <p>退院支援の充実度の確認を目的として、対象を全ての退院患者に拡大した病棟カンファレンスを今年度も継続した。また、入院患者の現状を把握するためのリハビリカンファレンスもあわせて行った。</p> <p>【実績値：せのお病院】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率 ※1</td> <td>55.7%</td> <td>78.9%</td> <td>68.6%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率 ※2</td> <td>58.8%</td> <td>95.8%</td> <td>98.5%</td> </tr> <tr> <td>病棟カンファレンス</td> <td>744回</td> <td>1,088回</td> <td>1,009回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 紹介率＝（紹介患者数／初診患者数）×100 ※2 逆紹介率＝（逆紹介患者数／初診患者数）×100</p> <p>【病床稼働率：せのお病院】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">病床稼働率 ※1</td> <td>一般病床 ※2</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>地域包括ケア病床</td> <td>88.5%</td> <td>86.6%</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	紹介率 ※1	55.7%	78.9%	68.6%	逆紹介率 ※2	58.8%	95.8%	98.5%	病棟カンファレンス	744回	1,088回	1,009回	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	病床稼働率 ※1	一般病床 ※2	—	—	地域包括ケア病床	88.5%	86.6%	<p>A</p> <p>A</p> <p>紹介率等の指標の実績値はすべて目標値を上回っているほか、外来リハビリの充実による利用者の大幅増、MRIの共同利用件数の増加なども、地域医療への貢献として高く評価できる。</p>
項目	令和3年度目標																																													
紹介率 ※1	40.0%																																													
逆紹介率 ※2	57.0%																																													
病棟カンファレンス	380回																																													
項目	令和3年度目標																																													
紹介率 ※1	40.0%																																													
逆紹介率 ※2	57.0%																																													
病棟カンファレンス	380回																																													
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																											
紹介率 ※1	55.7%	78.9%	68.6%																																											
逆紹介率 ※2	58.8%	95.8%	98.5%																																											
病棟カンファレンス	744回	1,088回	1,009回																																											
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																											
病床稼働率 ※1	一般病床 ※2	—	—																																											
	地域包括ケア病床	88.5%	86.6%																																											

		<p>※1 病床稼働率＝（在院患者延べ数＋退院患者数）×100／ （届出病床数×日数）</p> <p>在院患者延べ数とは、24時現在に入院中の患者の延べ数</p> <p>※2 せのお病院の一般病床は、平成30年5月から全て地域 包括ケア病床に転換している。</p>			
--	--	--	--	--	--

中期目標

イ 高度専門医療を担っている病院の後方支援病院としての役割を担うこと。特に市民病院とは市立総合医療センターとして一体的な医療サービスの提供に努めること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価																																					
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																																				
イ 市立総合医療センターとして市民病院と一体となった医療サービスの提供を図るとともに、地域の高度医療機関で一次治療を受けた患者を受け入れる後方支援の役割を果たす。	<p>イ 後方支援病院として、市民病院をはじめとした地域の高度専門医療機関から円滑に患者の受け入れができるよう体制の強化とベッドコントロールの充実を図る。</p> <p>また、市民病院と共に市立総合医療センターとして、新型コロナの治療後の患者も含め、一体的な医療サービスの提供に努める。</p>	<p>イ 急性期病院の後方支援を円滑に行うため、転院の相談を受けてから受入可否の決定までの期間を短縮する取組や空床情報を随時報告する取組を行い後方支援に努めた。</p> <p>また、市民病院をはじめ、その他の急性期病院からの新型コロナ回復後の患者の受け入れに努め、後方支援病院としての役割を果たした。</p> <p>【急性期病院からの紹介患者受入状況】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岡山市市民病院</td> <td>219件</td> <td>205件</td> <td>205件</td> </tr> <tr> <td>岡山労災病院</td> <td>11件</td> <td>10件</td> <td>16件</td> </tr> <tr> <td>岡山赤十字病院</td> <td>26件</td> <td>37件</td> <td>29件</td> </tr> <tr> <td>倉敷中央病院</td> <td>4件</td> <td>9件</td> <td>9件</td> </tr> <tr> <td>その他</td> <td>13件</td> <td>14件</td> <td>14件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>273件</td> <td>275件</td> <td>273件</td> </tr> </tbody> </table> <p>【地域包括ケア病床の延入院患者数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域包括ケア病床の延入院患者数</td> <td>19,426人</td> <td>19,000人</td> <td>19,037人</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	岡山市市民病院	219件	205件	205件	岡山労災病院	11件	10件	16件	岡山赤十字病院	26件	37件	29件	倉敷中央病院	4件	9件	9件	その他	13件	14件	14件	計	273件	275件	273件	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	地域包括ケア病床の延入院患者数	19,426人	19,000人	19,037人	B	B	空床情報の随時報告など、急性期病院の後方支援病院として円滑な転院受入に努めており、受入実績も過年度実績を維持できていることから、計画どおり実施できているものと評価する。
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																						
岡山市市民病院	219件	205件	205件																																						
岡山労災病院	11件	10件	16件																																						
岡山赤十字病院	26件	37件	29件																																						
倉敷中央病院	4件	9件	9件																																						
その他	13件	14件	14件																																						
計	273件	275件	273件																																						
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																						
地域包括ケア病床の延入院患者数	19,426人	19,000人	19,037人																																						

		※地域包括ケア病床の沿革（せのお病院全 60 床） ・平成 27 年 12 月～：24 床（一般病床 36 床） ・平成 29 年 7 月～：40 床（一般病床 20 床） ・平成 30 年 4 月～：52 床（一般病床 8 床） ・平成 30 年 5 月～：60 床（一般病床 0 床）			
--	--	--	--	--	--

中期目標		ウ 救急告示病院として周辺地域の医療機関と協力して初期救急医療を提供する役割を果たすこと。			
中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
ウ 周辺地域の救急医療機関と協力しながら、救急告示病院として初期救急医療を提供する役割を果たす。	ウ 周辺地域の医療機関と協力し、救急告示病院として市民病院と役割分担をしながら、初期救急医療を提供する。	ウ 初期救急医療では、医師がトリアージを行い、受入れが難しい場合は、患者に適切な医療機関で治療を受けるための説明を行うことで、患者にとって効率的な受診ができるように取り組んだ。 また、市民病院と新型コロナに関する情報交換を行いながら、発熱外来を実施した。	B	B	受入れが難しい場合には適切な医療機関での受診について説明して対応しているほか、発熱外来の実施に当たり市民病院と協力するなど、計画どおり初期救急医療の提供に取り組んでいる。

中期目標

エ 周辺地域の保健医療福祉関係機関と連携し、地域包括ケアの充実に貢献すること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価			市長による評価																
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																
<p>エ 医療・介護連携による地域貢献として、西ふれあいセンターが運営する訪問介護事業の夜間業務について、せのお病院が場所を提供する。また、地域の医療機関や地域包括支援センター等と連携して、地域に戻る患者や通院患者に加え、在宅での支援が想定される患者等の把握や、関係機関等との療養及び介護を意識した情報共有に努める。</p> <p>地域包括ケア病床については、入院前から在宅移行を想定した多職種との患者情報の共有及び連携に努めるなど、周辺地域の保健医療福祉関係機関との連携により地域包括ケアに貢献していく。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域医療機関等の参加する講演会開催数</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和3年度目標	地域医療機関等の参加する講演会開催数	4回	<p>エ 地域包括ケアの充実に貢献するため、新型コロナの感染状況をにらみながら、公民館での市民公開講座や西ふれあいセンターでの健康相談等を継続し、地域住民の健康教育を行う。</p> <p>また、地域密着型の施設として医療・介護・福祉の連携を深めるために、地域の医療者や在宅支援者が交流できるコミュニティ会議をリモート会議も含め開催する。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域医療機関等の参加する講演会開催数</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和3年度目標	地域医療機関等の参加する講演会開催数	4回	<p>エ 新型コロナの感染状況を踏まえながら、可能な範囲で市民と対面で公開講座や健康相談を実施し、地域住民の健康教育を行った。</p> <p>また、地域の医療者や在宅支援者が交流できるコミュニティ会議は全てをリモート開催とし、参加者の希望を考慮した講演内容とすることで新規参加者を増やすことができた。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>地域医療機関等の参加する講演会開催数</td> <td>4回</td> <td>0回</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	地域医療機関等の参加する講演会開催数	4回	0回	4回	B	B	<p>コロナ禍にあっても住民向け公開講座の開催に努めているほか、地域の医療機関等が参加する講演会についてはリモート開催としたうえで目標回数を達成している。講演内容に参加者の希望を反映するなど、参加者を増やす工夫をしており評価できる。</p>
項目	令和3年度目標																				
地域医療機関等の参加する講演会開催数	4回																				
項目	令和3年度目標																				
地域医療機関等の参加する講演会開催数	4回																				
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																		
地域医療機関等の参加する講演会開催数	4回	0回	4回																		

中期目標		オ 大規模災害に備え、傷病者の受入れや医療救護ができる体制を構築すること。			
中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
オ 大規模災害に備え、医薬品、食料等を備蓄する。災害発生時には、地域の医療機関と連携し、地域の拠点病院としての医療救護活動を行う。また、災害時の医療救護活動のための研修も行う。	オ 災害発生時には地域の拠点病院として、速やかな傷病者の受入れや医療救護活動、さらには、一時避難場所として近隣住民に提供ができるように、災害訓練を行う。 また、大規模災害に備え、医薬品、医療材料、食料の備蓄を行う。	オ 近隣で大規模地震が発生したことを想定し、BCPに基づく職員の参集訓練を行った。 また、災害に備えて医薬品・医療材料・食料の備蓄を行い、加えて老朽化した自家発電装置の修繕を行った。	B	B	BCPに基づく訓練や備蓄の整備等を計画どおり実施している。

2 医療の質の向上

(1) 安全・安心な医療の提供

中期目標	ア 市民に信頼される安全・安心な医療を提供するため、医療安全に係る情報の収集及び分析を行うとともに、全職員の医療安全に対する知識向上に努め、医療事故の予防及び再発防止対策に取り組むなど、積極的かつ組織的に医療安全対策を徹底すること。
------	--

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>ア 医療安全に関する会議及び委員会を定期的で開催し、インシデント及びアクシデントに関する情報の収集及び分析を速やかに行う。その結果を反映させた上で、医療事故の予防及び再発の防止に取り組むことにより、患者が安心して医療を受けることのできる環境を整備するとともに、全職員の医療安全に関わる知識の向上に努める。また、研修等を通じて情報共有することにより、医療事故の予防及び再発防止に病院全体で取り組む。</p> <p>重大な医療事故が発生した場合には、院内医療事故対策委員会を速やかに開催し、徹底して事故発生の原因分析を行い、再発防止に向けた組織的な対応を図る。</p>	<p>ア 週1回開催している多職種による医療安全に関する会議で、提出されたインシデント・アクシデントレポートを検討し、提案された改善策を基にPDCAサイクルを回す。</p> <p>また、改善策の実施と実施後の評価、評価に基づく再改良やマニュアル化を行い、院内メール等によりリアルタイムに発信していく。</p> <p>医師からの積極的なインシデント・アクシデントレポートの記載を促していく。</p> <p>医療安全研修については、コロナ禍において集合研修が難しい中でも1回の研修ごとの参加率が100%になるよう、eラーニングや伝達講習の仕組みを整備していく。</p>	<p>ア 医療安全管理室にインシデントやアクシデントの報告があれば、カルテでの内容確認や、直接関係部署に赴いて事実確認した上で、改善策を講じた。また、多職種による医療安全管理室会議を週1回、医療安全管理委員会を月1回定期的に開催、協議して、改善策を講じた。あわせて随時で院内メールやポータルサイトにより職員に発信した。</p> <p>今年度のインシデント・アクシデント報告件数は2,239件であり、日本医療安全調査機構が提言する一般的な指標（1ヶ月あたり病床数の2分の1：今年度は新型コロナの影響により、病床の縮小（350床）を行っており、2,200件/年）に対する達成率は、101.7%であった。</p> <p>内容別では、薬剤（27.8%）、ドレーン・チューブに関わるもの（29.0%）、療養上の世話（転倒転落等）（24.3%）で前年度までとほぼ同様だった。職種別では医師からの報告は8%が目値とされているが、医師、研修医合わせて5.7%と前年度に比べ1.8倍の報告があった。</p> <p>これは医療安全管理室が積極的に情報収集を行い、他の職種から寄せられた情報をふまえて、直接各担当医に報告書の入力依頼を継続した結果であると考えられる。</p> <p>他の職種では、看護師からの報告が88.7%、コメディカル7.2%、その他の職種1.3%であった。</p> <p>医療安全ニュースや日本医療機能評価機構から発信される医療安全情報を医療安全に関わるお知らせとして職員に配信を行い安全文化の意識向上を図った。</p>	B	B	<p>インシデント・アクシデント報告に基づく改善策の協議・発信は計画どおり実施されているほか、全体の報告に占める医師からの報告の割合も徐々に増えている。医療安全研修も計画どおりの回数を開催しており、概ね計画どおりと評価できる。</p>

	<p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療安全研修</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和3年度目標	医療安全研修	2回	<p>医療安全研修についてはコロナ禍ではあったが、状況に合わせて集合研修とeラーニングを併用し研修を行った。年2回の研修参加率は76.0%であった。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療安全研修</td> <td>18回</td> <td>3回</td> <td>4回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和2年度はeラーニングによる</p> <p>【インシデント・アクシデント報告・分析件数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>インシデント報告・分析件数</td> <td>2,517件</td> <td>2,228件</td> <td>2,248件</td> </tr> <tr> <td>アクシデント報告・分析件数</td> <td>38件</td> <td>33件</td> <td>48件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※インシデント報告・分析件数はアクシデント報告・分析件数を含む。</p> <p>【会議の開催数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療安全管理委員会</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> </tr> <tr> <td>医療安全推進会議 ※</td> <td>—</td> <td>—</td> <td>—</td> </tr> <tr> <td>医療安全推進員ワーキング</td> <td>11回</td> <td>12回</td> <td>11回</td> </tr> <tr> <td>薬剤検討ワーキング</td> <td>3回</td> <td>0回</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td>医療安全管理室会議</td> <td>46回</td> <td>50回</td> <td>49回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※院内全体の会議等の見直しにより、令和元年度から廃止。</p>	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	医療安全研修	18回	3回	4回	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	インシデント報告・分析件数	2,517件	2,228件	2,248件	アクシデント報告・分析件数	38件	33件	48件	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	医療安全管理委員会	12回	12回	12回	医療安全推進会議 ※	—	—	—	医療安全推進員ワーキング	11回	12回	11回	薬剤検討ワーキング	3回	0回	0回	医療安全管理室会議	46回	50回	49回			
項目	令和3年度目標																																																				
医療安全研修	2回																																																				
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																																		
医療安全研修	18回	3回	4回																																																		
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																																		
インシデント報告・分析件数	2,517件	2,228件	2,248件																																																		
アクシデント報告・分析件数	38件	33件	48件																																																		
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																																		
医療安全管理委員会	12回	12回	12回																																																		
医療安全推進会議 ※	—	—	—																																																		
医療安全推進員ワーキング	11回	12回	11回																																																		
薬剤検討ワーキング	3回	0回	0回																																																		
医療安全管理室会議	46回	50回	49回																																																		

中期目標

イ 院内感染防止に対する教育、訓練及び啓発を徹底するとともに、問題点を把握し、改善策を講ずる等の院内感染防止対策を確実に実施すること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>イ 院内感染対策委員会を定期的開催し問題点や課題を検討、解決し、全職員の院内感染に関わる知識の向上に努め、研修への積極的な参加を促す。また、院内感染防止マニュアルの適宜見直しを行い、院内感染の発生防止に取り組む。</p>	<p>イ 院内感染の発生防止や蔓延阻止を実現するため、院内感染対策委員会を定期的開催する。</p> <p>また、全職員の院内感染に関わる知識や技術の向上を図るため、研修会を積極的に開催するとともに、新たな事象に対応するためマニュアル類を必要に応じて定期的に見直す。</p> <p>さらに、感染制御チーム（ICT）による院内ラウンドを週に1回行い、院内感染防止対策に努める。</p> <p>入院患者の感染情報をリアルタイムに把握するシステム（院内感染管理システム）を活用し、より精度の高い管理を行う。</p> <p>感染症専門医の指導のもと、機能強化を図る。</p>	<p>イ 感染管理システムを使用し、耐性菌キャリアを含むサーベイランスの強化を行った。抗菌薬適正使用支援チーム（AST）の活動により、抗菌薬使用状況を確認し、感染症の院内動向を把握し耐性菌の発生を最低限に抑制した。また、継続して他施設と相互に訪問評価を実施した。新型コロナ影響により、職員の感染を考慮し、1月と2月の対面での委員会開催は見送った。また院内感染に関する職員の知識の向上を図る研修はeラーニングを使用し、感染対策に考慮して実施した。</p> <p>感染制御チーム（ICT）による院内ラウンドを週に1回継続して行い、血液培養陽性者に対する支援は365日体制で行った。多剤耐性菌であるMRSA（メチシリン耐性ブドウ球菌）、MDRP（多剤耐性緑膿菌）、ESBL（基質特異性拡張型ベータラクタマーゼ）産生菌、CRE（カルバペネム耐性腸球菌）等の持込に対するスクリーニングの強化とベッドコントロールを適正に継続し、感染症専門医の指導を受けることにより、アウトブレイクを起こすことなく院内感染の封じ込めができた。</p> <p>新型コロナ対策については、県内発生に対応して、岡山市保健所及び岡山県との連絡を緊密に行い、厚生労働省からの通知に迅速に対応しつつ、院内体制を構築した。また、職員の健康管理や入院・外来患者の管理も徹底し、職員の感染を最小限に抑えた。それにより、依頼のあった疑似症例の患者や確定患者を受け入れることができた。</p>	S	S	<p>感染対策を講じながら院内感染対策委員会の毎月開催を維持したほか、インフェクションコントロールチームによる院内巡視、eラーニングを活用した職員研修など、計画を着実に遂行している。職員の感染を最小限に抑えることで医療提供体制を維持し、多くの新型コロナ患者を受入れており非常に高く評価できる。</p>

【目標値】		【実績値】			
項目	令和 3年度 目標	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	
院内感染対策委員会 開催数	12回	12回	12回	12回※	
※うち2回は書面に対応した。					
【職員研修開催数】		令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	
院内感染に関わる職 員研修		43回	16回※	15回※	
※新型コロナの影響により、うち3テーマについては、 eラーニングも活用し、全員参加を図った。					

中期目標

ウ 医療法をはじめとする関係法令を遵守することはもとより、個人情報の保護及び情報公開に関して適切に対応するなど行動規範と倫理を確立し、適正な病院運営を行うこと。

中期計画	年度計画	法人による自己評価			市長による評価																										
		評価の判断理由・業務の実施状況等			評価	評価	評価の判断理由・意見等																								
ウ 個人情報保護マニュアルを適宜更新するとともに、コンプライアンスに関する研修を定期的で開催して、職員の行動規範と倫理を徹底する。また、カルテ等の個人情報の保護及び情報公開に関しては、市の条例に基づき適切に対応する。	ウ 個人情報保護、コンプライアンスに係る研修に関する研修動画や資料を作成し、職員に周知することで、職員の行動規範と倫理観を向上させる。 また、マニュアルの改訂や運用の改善を図り、個人情報漏えい防止のための体制づくりを進める。 カルテ等の個人情報の保護及び情報公開に関しては、岡山市の条例に基づき適切に対応する。 【目標値】 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>個人情報保護研修</td> <td>全職員対象の研修：3回 新任職員研修：6回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和3年度目標	個人情報保護研修	全職員対象の研修：3回 新任職員研修：6回	ウ 集合研修については、新型コロナの拡大状況を鑑み中止したが、全職員向けに個人情報保護研修動画を作成し公開した。また、新・中途採用者及び育休等からの復職者、看護補助者を対象とした研修を実施した。 個人情報漏えい等の事例について、その事実関係の状況、原因、対策について個人情報保護委員会で事例のもとに協議した。 漏えい等における事後対応方法や、業務上必要な個人情報を含むデータの取り扱いについて見直し等を行い、職員に周知した。 また、マニュアルの見直しを適宜行い、必要事項を記載した。 医療情報の開示については規程に基づき適切に対応した。 【実績値】 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th colspan="2">項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">個人情報保護研修</td> <td>全職員対象の研修</td> <td>0回※1</td> <td>0回※1</td> <td>0回※2</td> </tr> <tr> <td>新任職員研修</td> <td>7回</td> <td>4回</td> <td>2回</td> </tr> </tbody> </table> ※新型コロナの拡大状況を鑑み、代替としてポータルサイトに資料を掲載して周知した。 ※新型コロナの拡大状況を鑑み、代替としてポータルサイトに研修動画とアンケートを掲載した。 【医療情報開示件数】 <table border="1" style="width: 100%;"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>医療情報開示件数</td> <td>78件</td> <td>112件</td> <td>113件</td> </tr> </tbody> </table>	項目		令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	個人情報保護研修	全職員対象の研修	0回※1	0回※1	0回※2	新任職員研修	7回	4回	2回	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	医療情報開示件数	78件	112件	113件	B	B	新型コロナの影響で全職員向け研修・新任職員研修とも十分開催することはできなかったが、研修動画の活用等で代替している。個人データの取扱い等についても見直しを行うなど、概ね計画どおり実施しているものと評価できる。
		項目	令和3年度目標																												
		個人情報保護研修	全職員対象の研修：3回 新任職員研修：6回																												
		項目		令和元年度実績	令和2年度実績		令和3年度実績																								
個人情報保護研修	全職員対象の研修	0回※1	0回※1	0回※2																											
	新任職員研修	7回	4回	2回																											
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																												
医療情報開示件数	78件	112件	113件																												

(2) 総合的な診療体制の確立とチーム医療の推進

中期目標

安全で質の高い医療を安定的・継続的に提供するため、岡山E Rとの連携強化による総合的な診療体制を確立するとともに、多職種連携によりチーム全体で医療を推進するなど、診療体制の強化・充実を図ること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>総合的な診療を充実させるために、体制と業務の両面において強化を図る。</p> <p>体制面では、人材育成のため平成29年10月から市民病院内で運用を開始した人材開発センターを本格稼働させ、医療従事者への教育の質の向上を図る。</p> <p>業務面では、岡山E Rと各診療科との連携による救急診療及び専門診療をさらに充実させ、I C T、N S Tや口腔ケアをはじめ多職種で構成されるチーム医療を積極的に行う。</p>	<p>医師、看護師等の医療従事者は一定数確保できているが、救急体制の更なる強化と医療職の働き方改革への対応に向けて必要な人材を確保するとともに、各科専門領域の強化と総合的な診療体制について、より一層の充実と効率化を図る。</p> <p>岡山E Rとの連携強化による総合的な診療体制を充実するため、岡山E Rとそこから入院する症例のために診療体制の一体化を進め、機能強化を図るとともに、多職種横断的な症例検討会や研修会を通じて職員の育成も行う。</p> <p>さらに、感染制御チーム（I C T）、栄養サポートチーム（N S T）、緩和ケアチーム等の多職種で構成されるチーム医療を積極的に行うために、多職種向けの勉強会を多数実施するとともに、医療現場での職種間の連携強化を図り、提供する医療の質の向上を図る。</p> <p>医師については、臨床研修制度の改革に対応したプログラムを充実し、質の向上を図る。</p> <p>また、内科専門プログラムを通じて院内体制の強化、地域医療への協力体制の強化を図り、安全で質の高い医療を安定的・継続的に提供する。</p>	<p>安定的な診療体制の確保のため、法人全体で正規職員62人（医師7人、看護師46人、その他医療従事者6人、事務3人）を採用した。</p> <p>新型コロナ蔓延継続に伴い救急診療と感染症診療の両立に困難を極めたが、5階専用病床の受入体制維持を行い、岡山E Rとそこから入院する症例のために診療体制の一体化を進め、機能強化を一部図り、感染症対策のできる職員を継続して育成した。</p> <p>対面での研修が極めて困難で新型コロナの感染力が上昇していく中でスキルアップ研修については6回と前年度と同数を維持した。</p> <p>多職種参加の入院カンファレンスは、新型コロナ蔓延に伴い多人数での対面での開催が禁止される中で前年並みの回数を実施した。チーム医療を進めるためのその他の病棟カンファレンスも、平時に作成した目標値1,800回に対して、多人数での会議が制限される中で、1,543回開催した。</p> <p>チーム医療の観点が追加された初期臨床研修制度の改革に対応し、プログラムに他職種からの評価を実施している。</p>	A	A	<p>新型コロナの影響でスキルアップ研修・病棟カンファレンスとも目標回数を下回ったが、積極的な職員採用、感染症対応のできる職員の育成に取り組み、診療体制の強化・充実に取り組んだことは高く評価できる。</p>

【目標値】			【目標値】			【実績値】							
項目		令和 3年度 目標	項目		令和 3年度 目標	項目		令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績			
スキルアップ研修 (全職員対象)		24回	スキルアップ研修 (全職員対象)		24回	スキルアップ研修 (全職員対象)		22回	6回	6回			
病棟カ ンファ レンス	入院時カン ファレンス	5,500回	病棟カ ンファ レンス	入院時カン ファレンス	5,500回	病棟カ ンファ レンス	入院時カン ファレンス	5,628 回	4,627 回	4,459 回			
	その他カン ファレンス	1,800回		その他カン ファレンス	1,800回		その他カン ファレンス	1,439 回	1,603 回	1,543 回			

(3) 医療の標準化の推進

中期目標 ア 法人内の医療系と事務系を統合した総合情報システムの活用により、医療の質の向上、さらには患者サービスの向上を図ること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>ア 法人内の医療系と事務系を統合（物理統合・論理分離）したネットワークインフラ上で一元管理している総合的な医療情報システムのデータベースを最大限に活用する。また、デイリーで更新した経営指標に係る数値を全職員が容易に確認できるように、継続してポータルサイト上で可視化する。これらの取組により医療の質向上、患者サービスの向上、経営改善意識の向上につなげていく。</p>	<p>ア 総合情報システムの基盤となるネットワーク機器の更改を前年度に引き続き、実施する。</p> <p>新型コロナ患者の増加に伴い、前年度より需要が増しているTV会議、TV面会が安定して運用できるよう環境整備を行う。</p> <p>電子カルテシステムでは、次期システム構築作業を遅滞なく行い、コロナ禍が続いても、患者サービスの低下、医療の質の低下を招かないよう必要な機能の導入について検討を続ける。</p>	<p>ア 総合情報システムの基盤となるネットワーク機器の今年度分の更改を予定どおり行った。</p> <p>新型コロナ関連では、前年度に導入したオンラインによる会議や面会システムの安定運用に努めた。また、特定の診療科でのリモートワーク実現に向け、ハード、ソフト面での整備を行った。</p> <p>電子カルテシステムは、導入に向け職員が参加する各分野の部会を開催し、新システムの仕様確認と修正要望の洗い出しを行い、新システムが患者サービスの低下を招かない仕様となるよう努めた。</p>	B	B	<p>総合情報システムの基盤となるネットワーク機器の更新やオンライン会議・面会システムの安定運用に努めており、計画を順調に実施しているものと評価できる。</p>

中期目標

イ 客観的な根拠に基づく個々の患者への最適な医療を提供するとともに、クリニカルパスの充実と活用による医療の標準化に取り組むこと。

中期計画	年度計画	法人による自己評価			市長による評価																																		
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																																		
<p>イ 厚生労働省や学会等のガイドラインに基づいて、現時点の標準とされる医療の提供に積極的に取り組む。その方法としてクリニカルパスの充実と活用を推進し、アウトカムに基づく新しいクリニカルパスの作成を進める。</p>	<p>イ クリニカルパスについては、必要性に応じてパスの作成・廃止を多職種で行い、より使いやすいパスを作成する。</p> <p>また、一般財団法人医療情報システム開発センター(MED I S)で評価監査を順次受け、更なる標準化を図り、引き続き使用率の向上を目指す。</p> <p>クリニカルパス大会については、コロナ禍でも参加できるようweb講演会の開催も検討しながら、年5回開催する。</p> <p>岡山県のクリニカルパス学会評議員は当院の2名だけであり、岡山県や中国地方のパスの推進・啓発のために、当院主催で他院を招いてのシンポジウムや研究会を開催し、クリニカルパスについて広く啓発していく。</p>	<p>イ クリニカルパスの精度を上げるため、積極的に改訂を行った。また、多職種で協議し新規作成も行った。パスの使用率については、新電子カルテシステムへの移行に伴う作業のため、新規パスの一般財団法人医療情報システム開発センター(MED I S)への申請が行えなかったが、パスを整備し59%と前年度より向上した。</p> <p>クリニカルパス大会は、新型コロナウイルスの影響及び次年度に実施する次期システム更新作業の影響で、計3回しか開催できなかったが、そのうち1回はオンライン形式で公開クリニカルパス大会を行ない、全国から60施設超の参加があった。</p> <p>日本クリニカルパス学会への演題発表について、当院からは過去最多の8演題を発表した。また、当院から提出していた論文が論文奨励賞を受賞した。さらに、当院のクリニカルパスに対する啓発活動について、クリニカルパス学会が発刊する書籍に掲載された。</p>	A	A	<p>クリニカルパス種類数等の各種指標は概ね目標を達成したほか、クリニカルパス大会については、コロナの影響で開催数は少なくなったものの、オンライン形式で公開した大会に全国から多くの施設の参加があったことは高く評価できる。</p>																																		
<p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリニカルパス種類数</td> <td>145</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和3年度目標	クリニカルパス種類数	145	<p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリニカルパス種類数</td> <td>260</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス使用率</td> <td>55.0%</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス大会</td> <td>5回</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス開発支援会議</td> <td>12回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和3年度目標	クリニカルパス種類数	260	クリニカルパス使用率	55.0%	クリニカルパス大会	5回	クリニカルパス開発支援会議	12回	<p>【実績値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>クリニカルパス種類数</td> <td>273</td> <td>250</td> <td>265</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス使用率</td> <td>54.8%</td> <td>56.0%</td> <td>59.0%</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス大会</td> <td>4回</td> <td>4回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>クリニカルパス開発支援会議 ※</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>12回</td> </tr> </tbody> </table> <p>※令和元年度に名称を「クリニカルパス委員会」から「クリニカルパス開発支援会議」に変更している。</p>	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	クリニカルパス種類数	273	250	265	クリニカルパス使用率	54.8%	56.0%	59.0%	クリニカルパス大会	4回	4回	3回	クリニカルパス開発支援会議 ※	12回	12回	12回			
項目	令和3年度目標																																						
クリニカルパス種類数	145																																						
項目	令和3年度目標																																						
クリニカルパス種類数	260																																						
クリニカルパス使用率	55.0%																																						
クリニカルパス大会	5回																																						
クリニカルパス開発支援会議	12回																																						
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																				
クリニカルパス種類数	273	250	265																																				
クリニカルパス使用率	54.8%	56.0%	59.0%																																				
クリニカルパス大会	4回	4回	3回																																				
クリニカルパス開発支援会議 ※	12回	12回	12回																																				

(4) 調査・研究の実施

中期目標

医療に関する調査や臨床研究、治験を推進する体制を整備し、積極的に取り組むこと。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価																									
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																								
<p>自院での研究や他の医療機関との共同研究を含め、新しい薬剤や医療機器の開発、新しい治療法の開発等に関する臨床試験や治験を積極的に推進し、国の承認に貢献することで、研究レベルの医療を市民が通常受けることができる医療となるように努める。また、その成果をもとに学会発表や研究論文として発表する。</p>	<p>治験センターの整備により治験の相談件数が増加しており、受託件数の増加に結び付くよう効果的な運用を行う。これにより新薬の開発を目的とした企業治験による医療の進歩や、新薬の販売後調査による安全性の向上に寄与する。</p> <p>また、岡山大学を中心とした岡山医療連携推進協議会（CMA-O k a y a m a）の活動が始まっており、この協議会を通じて地域の医療機関との共同研究を含め、新しい診断や治療法の開発等に貢献する臨床試験に積極的に参加する。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>治験</td> <td>新規：10件</td> </tr> <tr> <td>新薬販売後調査</td> <td>新規：20件</td> </tr> <tr> <td>臨床試験</td> <td>10件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和3年度目標	治験	新規：10件	新薬販売後調査	新規：20件	臨床試験	10件	<p>治験については、継続中のもの14件、新規9件につき、治験審査委員会を開催して審議を行い、適切に管理した上で実施した。</p> <p>厚生労働省より販売後調査を義務づけられた新薬については、販売後調査にも積極的に参加し、21件を実施した。</p> <p>その他臨床試験については、新しい治療や薬剤を中心に計25件の審査を倫理委員会で実施した。</p> <p>また、岡山大学を中心とした岡山医療連携推進協議会を通じて地域の医療機関との共同研究を含め、新しい診断や治療法の開発等に貢献する臨床試験に積極的に参加しているが、対象となる案件はなかった。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>治験</td> <td>継続：18件 新規：8件</td> <td>継続：21件 新規：4件</td> <td>継続：14件 新規：9件</td> </tr> <tr> <td>新薬販売後調査</td> <td>継続：65件 新規：18件</td> <td>継続：35件 新規：15件</td> <td>継続：61件 新規：21件</td> </tr> <tr> <td>臨床試験</td> <td>63件</td> <td>33件</td> <td>25件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	治験	継続：18件 新規：8件	継続：21件 新規：4件	継続：14件 新規：9件	新薬販売後調査	継続：65件 新規：18件	継続：35件 新規：15件	継続：61件 新規：21件	臨床試験	63件	33件	25件	<p>B</p>	<p>B</p>	<p>新規治験件数等の目標指標は概ね目標を達成している。対象案件こそなかったものの、岡山医療連携推進協議会へ積極的に参加するなど、計画を順調に実施できている。</p>
		項目	令和3年度目標																										
治験	新規：10件																												
新薬販売後調査	新規：20件																												
臨床試験	10件																												
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																										
治験	継続：18件 新規：8件	継続：21件 新規：4件	継続：14件 新規：9件																										
新薬販売後調査	継続：65件 新規：18件	継続：35件 新規：15件	継続：61件 新規：21件																										
臨床試験	63件	33件	25件																										

3 市民・患者サービスの向上

(1) 患者中心の医療の提供

中期目標

ア 全ての患者の権利と人格を尊重し、患者への十分な説明と同意のもとに患者の視点に立った質の高い医療を継続して提供すること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価													
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等												
ア 全ての患者の権利と人格を尊重し、患者の視点に立った質の高い医療を継続して提供するため、患者への十分な説明と同意のもとに医療を提供するインフォームドコンセントを徹底するとともに、セカンドオピニオンの相談に適切に対応する。また、患者との信頼関係構築のため、患者側と医療機関側の対話の橋渡しをする院内医療メディエーターの導入の準備を進めるなど、医療相談窓口機能を強化する。	ア 全ての患者の権利と人格を尊重し、患者の視点に立った質の高い医療を提供するため、患者への十分な説明と同意のもとに医療を提供するインフォームドコンセントを徹底するとともに、セカンドオピニオンの相談に適切に対応する。 また、引き続き院内の医療相談窓口機能も強化する。	<p>ア インフォームドコンセントについては、書式の整備及び記録の在り方について検討を進め、患者への確実な履行と質の担保に努めた。</p> <p>また、セカンドオピニオンについては、患者の希望により他院セカンドオピニオン外来への相談調整、他院患者からの当院セカンドオピニオン外来への相談受入れや調整を行った。</p> <p>医療相談窓口としては、患者相談室、がん相談支援センターを中心に相談を受け付け、週に一度医療安全管理者も含めた多職種カンファレンスを開催した。相談実績や内容は各部署へ周知し、改善が必要な事項については問題提起を行い、解決を図った。</p> <p>患者との信頼関係構築のために、職員が医療メディエーターの研修を受け、相談対応の質向上に努めた。</p> <p>【セカンドオピニオン外来件数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>他院から市民病院</td> <td>3件</td> <td>5件</td> <td>5件</td> </tr> <tr> <td>市民病院から他院</td> <td>1件</td> <td>3件</td> <td>3件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	他院から市民病院	3件	5件	5件	市民病院から他院	1件	3件	3件	B	B	セカンドオピニオン対応件数については前年度の水準を維持しており、相談窓口整備、職員の研修等も計画どおり実施できている。
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績														
他院から市民病院	3件	5件	5件														
市民病院から他院	1件	3件	3件														

中期目標	イ 患者との信頼関係の構築に努め、多職種と連携して医療を提供すること。
-------------	-------------------------------------

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>イ 患者に対して、薬物療法の安全性と質の向上のために薬剤師による薬剤管理指導、無菌製剤処理及び外来化学療法の一層の充実を図る。また、入院患者におけるチーム医療の向上のため、平成28年度より開始した病棟薬剤業務の充実に努める。</p> <p>さらに、管理栄養士による各種栄養食事指導及び入院患者に対するの食事相談についても一層の充実を図る。</p>	<p>イ 患者サービスの向上を図るため、薬剤師による薬剤管理指導、無菌製剤処理、外来化学療法及び病棟薬剤業務の維持と充実に努める。</p> <p>また、抗菌薬の適正使用、入院患者の持参薬及び注射薬セットの充実を積極的に努める。加えて、退院後の薬の管理や地域の薬局との連携強化に努める。</p> <p>その他、医薬品の安定供給の確保、適正な保管、ジェネリックの採用等、医療の質と経済性を踏まえた管理に努める。</p> <p>管理栄養士による各種栄養指導を充実させ、外来から入院まで一貫した指導を行うことで、さらに患者サービスの向上に努める。</p> <p>また、入院患者に対するの食事相談も充実させ、食事が入院中の楽しみとなるよう心がけるとともに、治療の一環として貢献できるよう努める。</p>	<p>イ 薬剤管理指導件数、無菌製剤処理件数及び外来化学療法件数は、前年度より増加し、目標値を達成した。病棟薬剤業務については、ICU及びHCUも含む全10病棟へ薬剤師を配置し、入院患者に対する最適な薬物療法の実施に努めた。</p> <p>また、抗菌薬の使用については、平成30年7月から薬剤師1名を抗菌薬適正使用支援チーム(AST)への専従とし、高度な管理を行った。ポリファーマシー(多剤服用の中でも害をなすもの)への対策としては、薬剤総合評価調整加算の基準に適合するようにし、解消に努めた。</p> <p>地域の薬局とは定期的な会合により情報共有を行った。また令和2年度の診療報酬改定で外来におけるがん化学療法を地域の薬剤師と連携することに対して新設された連携充実加算についても随時体制を整備し実施した。</p> <p>その他、病棟で対応していた夜間の入院患者への注射薬の個人セットは、安全面を考慮し、薬剤部での24時間対応を継続して行った。</p> <p>医療の質と経済性の向上のため、フォーミュラリー(医学的妥当性や経済性等を踏まえて作成する医薬品の使用方針)の策定、バイオシミラー(バイオ医薬品の後続品)の採用等についても継続的に推進した。</p> <p>新型コロナに対しては治療薬の確保、使用薬剤の適正使用への関与、ワクチンの適正管理及び地域への供給に当たった。</p> <p>各種栄養指導については、新型コロナ予防対策のため、引き続き集団指導を中止したことや、入院患者数の減少により目標を達成することができなかった。その中にあっても、各診療チーム内で定期的にカンファ</p>	A	A	<p>栄養指導、食事相談件数が目標件数に届かなかったがコロナの影響もありやむを得ない。一方で薬剤管理関係の実績が目標を上回ったほか、チーム内カンファレンスにより個々の患者の合わせた指導の継続に努めており、総合的に高く評価できる。</p>

	<p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤管理指導件数 (薬剤管理指導料ⅠⅡⅢ, 退院)</td> <td>14,000件</td> </tr> <tr> <td>無菌製剤処理料件数 (ⅠⅡ)</td> <td>3,600件</td> </tr> <tr> <td>外来化学療法加算数 (Ⅰ)</td> <td>1,100件</td> </tr> <tr> <td>各種栄養指導合計件数</td> <td>1,380件</td> </tr> <tr> <td>入院患者食事相談件数</td> <td>450件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和3年度目標	薬剤管理指導件数 (薬剤管理指導料ⅠⅡⅢ, 退院)	14,000件	無菌製剤処理料件数 (ⅠⅡ)	3,600件	外来化学療法加算数 (Ⅰ)	1,100件	各種栄養指導合計件数	1,380件	入院患者食事相談件数	450件	<p>レンズを行い、患者個々の生活スタイルにあわせた指導を継続した。</p> <p>入院患者食事相談については、食事サービスの向上のため、当院の管理栄養士、委託業者の栄養士及び調理師が協働で食事相談を実施し、また、病院食嗜好調査を実施した。しかし、院内での新型コロナ感染予防強化により、横断的に直接患者相談を行う機会が減少し目標件数の達成には至らなかった。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>薬剤管理指導件数(薬剤管理指導料ⅠⅡⅢ, 退院)</td> <td>16,278件</td> <td>15,468件</td> <td>15,530件</td> </tr> <tr> <td>無菌製剤処理料件数(ⅠⅡ)</td> <td>4,117件</td> <td>3,894件</td> <td>4,255件</td> </tr> <tr> <td>外来化学療法加算数(Ⅰ)</td> <td>1,518件</td> <td>1,439件</td> <td>1,525件</td> </tr> <tr> <td>各種栄養指導合計件数</td> <td>1,704件</td> <td>1,326件</td> <td>1,356件</td> </tr> <tr> <td>入院患者食事相談件数</td> <td>414件</td> <td>474件</td> <td>365件</td> </tr> </tbody> </table> <p>(各種栄養指導実績内訳)</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="2">個人指導</td> <td>外来</td> <td>527件</td> <td>476件</td> <td>612件</td> </tr> <tr> <td>入院</td> <td>810件</td> <td>626件</td> <td>594件</td> </tr> <tr> <td>集団指導</td> <td>76件</td> <td>0件</td> <td>0件</td> </tr> <tr> <td>人間ドック、特定健診</td> <td>65件</td> <td>37件</td> <td>38件</td> </tr> <tr> <td>透析予防指導</td> <td>226件</td> <td>187件</td> <td>112件</td> </tr> <tr> <td>計</td> <td>1,704件</td> <td>1,326件</td> <td>1,356件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	薬剤管理指導件数(薬剤管理指導料ⅠⅡⅢ, 退院)	16,278件	15,468件	15,530件	無菌製剤処理料件数(ⅠⅡ)	4,117件	3,894件	4,255件	外来化学療法加算数(Ⅰ)	1,518件	1,439件	1,525件	各種栄養指導合計件数	1,704件	1,326件	1,356件	入院患者食事相談件数	414件	474件	365件	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	個人指導	外来	527件	476件	612件	入院	810件	626件	594件	集団指導	76件	0件	0件	人間ドック、特定健診	65件	37件	38件	透析予防指導	226件	187件	112件	計	1,704件	1,326件	1,356件			
項目	令和3年度目標																																																																					
薬剤管理指導件数 (薬剤管理指導料ⅠⅡⅢ, 退院)	14,000件																																																																					
無菌製剤処理料件数 (ⅠⅡ)	3,600件																																																																					
外来化学療法加算数 (Ⅰ)	1,100件																																																																					
各種栄養指導合計件数	1,380件																																																																					
入院患者食事相談件数	450件																																																																					
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																																																			
薬剤管理指導件数(薬剤管理指導料ⅠⅡⅢ, 退院)	16,278件	15,468件	15,530件																																																																			
無菌製剤処理料件数(ⅠⅡ)	4,117件	3,894件	4,255件																																																																			
外来化学療法加算数(Ⅰ)	1,518件	1,439件	1,525件																																																																			
各種栄養指導合計件数	1,704件	1,326件	1,356件																																																																			
入院患者食事相談件数	414件	474件	365件																																																																			
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																																																			
個人指導	外来	527件	476件	612件																																																																		
	入院	810件	626件	594件																																																																		
集団指導	76件	0件	0件																																																																			
人間ドック、特定健診	65件	37件	38件																																																																			
透析予防指導	226件	187件	112件																																																																			
計	1,704件	1,326件	1,356件																																																																			

		<p>【病院食嗜好調査】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2年度 実績</th> <th>令和 3年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>実施回数</td> <td>3回</td> <td>3回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>1回目 実施者数</td> <td>146名</td> <td>189名</td> <td>183名</td> </tr> <tr> <td>2回目 実施者数</td> <td>133名</td> <td>201名</td> <td>215名</td> </tr> <tr> <td>3回目 実施者数</td> <td>130名</td> <td>203名</td> <td>215名</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	実施回数	3回	3回	3回	1回目 実施者数	146名	189名	183名	2回目 実施者数	133名	201名	215名	3回目 実施者数	130名	203名	215名			
項目	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績																						
実施回数	3回	3回	3回																						
1回目 実施者数	146名	189名	183名																						
2回目 実施者数	133名	201名	215名																						
3回目 実施者数	130名	203名	215名																						

中期目標

ウ 患者ニーズの把握及び改善などによりサービスの向上を図るとともに、医療の質の向上につなげること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>ウ 患者満足度調査や投書箱の活用により、患者ニーズの動向を的確に把握し、サービスの向上を図るとともに、院内環境の整備を進め、快適な療養環境を提供することで、医療の質の向上につなげる。</p> <p>退院に際しては、地域連携室の登録医療機関と連携して、切れ目のない診療体制を強化していく。</p>	<p>ウ 患者満足度調査の継続的な実施により、患者ニーズの動向を把握し、患者サービスの向上を目指すとともに、医療の質の向上を図る。</p> <p>退院に際しては、地域の病院との「市民病院地域ネットワーク」を活用するなど、各病院の機能、役割を明確化した上で、密な連携を図り、切れ目のない診療体制を強化していく。</p>	<p>ウ 新型コロナの影響により入院・外来ともに調査対象となる患者数が減少し、特に入院患者については調査件数が増えなかった。</p> <p>入院の評価については、面会制限等患者に不便が生じたにも関わらず、徹底した感染対策が評価され、満足度は大きく落ち込むことはなかった。</p> <p>外来は、調査対象となる患者数の減少を補完するため前年度に引き続き調査回数を増やす、期間を延長するなどの工夫をし、件数を維持した。満足度も新型コロナに対する姿勢が評価され、高い満足度を維持できた。</p> <p>なお、提出された意見については内部で検討し対応した。</p> <p>「市民病院地域ネットワーク」参加病院とオンラインでの空床状況を共有することにより、転院調整における相談先の選定・調整及び当院での入院を要しないが経過観察やリハビリを必要とする患者の受入先の確保の効率化が得られた。</p> <p>また、在宅復帰患者については、地域包括支援センターを始めとする地域の医療・介護支援の連携先と密に情報共有を行い、円滑な療養の場の移行と安心して暮らせる環境づくりに努めた。</p> <p>前年度同様コロナ禍により集合型の研修会や会議の開催、個々の患者についてのケア会議の開催が困難となり、「顔の見える連携」が図りづらい状況下ではあったが、オンラインや対面と組み合わせたハイブリッド方式を使い分け、患者や関係者にとってより良く、かつ感染対策を講じて開催した。</p> <p>また、地域における新型コロナの重点医療機関の役割として、治療後の患者の療養・リハビリ継続の受入先の拡充や地域生活移行への円滑化を図った。</p>	B	A	<p>入院・外来とも患者満足度は高い水準を維持している。オンラインと対面を柔軟に組み合わせ、または使い分けて開催し、感染対策を講じつつ患者ニーズの把握と関係者の連携強化に努めたことも高く評価できる。</p>

【目標値】			【目標値】			【実績値：患者満足度調査結果（満足+やや満足）】			
項目		令和 3年度 目標	項目		令和 3年度 目標	項目	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績
患者満足度 調査結果 (満足+やや 満足)	入院	95.0%	患者満足度 調査結果 (満足+やや 満足)	入院	95.0%	入院	735 (回答数 776) → 94.7%	491 (回答数 502) → 97.8%	487 (回答数 502) → 97.0%
	外来	80.0%		外来	80.0%	外来	678 (回答数 712) → 95.2%	705 (回答数 720) → 97.9%	714 (回答数 731) → 97.7%
						計	1,413 (回答数 1,488) → 95.0%	1,196 (回答数 1,222) → 97.9%	1,201 (回答数 1,233) → 97.4%

中期目標		エ 医療を提供した結果、患者やその家族との紛争が生じた場合には、適切な紛争解決の方法を確保すること。			
中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
エ 医療を提供した結果、患者やその家族との紛争が生じた場合には、円滑かつ円満な解決に努める。	エ 患者やその家族との紛争が生じた場合には、医療ADR等の裁判外紛争解決システムや医療賠償責任のセカンドオピニオン等を有効に利用し、円滑かつ円満な解決に努める。 また、患者対応専用職員を配置し、日々発生するトラブル等に迅速に対応する。	エ 患者やその家族との紛争については、顧問弁護士や損害保険会社、セカンドオピニオン等を有効に利用し、円滑かつ円満な解決に努めた。 また、患者対応専門職員により、日々発生する問題等に迅速に対応した。	B	B	紛争については弁護士相談やセカンドオピニオンの活用により円満な解決に努めているほか、患者対応専門職員の配置により日々の課題・問題への適切な対応に備えるなど、計画どおり実施できている。

(2) 職員の接遇向上

中期目標

患者やその家族、市民から信頼を得られるように職員の意識を高め、接遇の向上に努めること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>患者満足度調査における接遇項目の評価から問題点、課題を抽出し、それらを改善するための研修会の実施及び接遇向上のための重点取組期間を設けることにより、患者やその家族に対する接遇向上に努める。</p>	<p>患者満足度調査や患者の意見等をまとめ、職員用ポータルサイトや職員掲示板に掲示し、具体的な問題点を周知し、接遇時の意識向上を図る。</p> <p>新型コロナの影響により、多人数による研修の実施が困難な状況が継続する場合には、動画による研修の実施を行い、引き続き接遇向上に努める。</p> <p>病院に対する要望や相談対応を専門とする職員を引き続き配置し、関連部署との連携を強化させ、課題に対して速やかに対応できる体制を充実させる。</p>	<p>患者満足度調査や患者の意見等をまとめ、職員用ポータルサイトに毎週掲示し、具体的な問題点を周知することで、接遇時における意識の向上を図った。</p> <p>職員の接遇向上については、新型コロナの影響で大人数での対面研修は実施できず、代替措置としてポータルサイトを活用し動画による研修を行った。また、受付対応について医事課職員を対象に外部講師を招き、「接遇の基礎編」、「実践編」、「クレーム初期対応編」と計3回の接遇研修を実施した。</p> <p>この研修の実施を受け、次年度から外部講師による全職員対象の研修の実施に取り組むことになった。</p> <p>患者や家族からの要望や相談の対応について、窓口で解決が困難な案件は患者サービス係で対応するなど組織として対応した。</p>	B	B	<p>コロナ禍にあっても研修の方法を工夫して実施しており、計画を順調に実施していると評価できる。</p>

(3) 市民や患者にわかりやすい情報発信

中期目標

市立病院の役割や機能に加え、疾病予防や健康に関する情報等、市民や患者にわかりやすい情報発信に積極的に取り組むこと。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>患者やその家族、市民に向けて、病院の役割・機能、診療実績、専門医の紹介等の診療情報、財務諸表等の経営情報、疾病予防や健康に関する情報等についてホームページや広報誌等を活用してわかりやすく発信する。加えて、広報媒体を通じてさまざまな行事やその様子を伝え、地域との関わりを深めることで地域での社会的認知向上を目指す。</p> <p>また、院内健康教室、市民公開講座等の開催情報を発信して健康教育を推進する。</p>	<p>市民、患者及びその家族に向けて、病院の役割・機能、診療実績、専門医の紹介等の診療情報、財務諸表等の経営情報、疾病予防や健康に関する情報等を各種広報媒体でわかりやすく発信する。</p> <p>ホームページやフェイスブック、院外広報誌、院内掲示板等の各広報媒体を利用しながら、定期的なラジオ出演、テレビ・新聞等、メディアへの取材にも協力し、市立病院としての責任ある情報を発信する。</p> <p>新型コロナウイルスの影響で市民・患者向けイベントの開催は依然難しい状況だが、第二種感染症指定医療機関として、感染拡大の予防について各種メディアからの取材へ協力し、正しい情報を発信する。</p>	<p>市民、患者及びその家族向けに、院外広報誌の定期的な発行・配布、ホームページやフェイスブックの更新、FMラジオ番組への職員出演、院内展示等により継続して情報発信を実施した。</p> <p>新聞・テレビ・ラジオ等での露出は47件となった。新型コロナ関連の取材対応ならびに番組出演がそのほとんどを占めるが、低侵襲手術センターや手術支援ロボット導入、マタニティ関連の情報発信についても実施した。</p> <p>市民病院では、市民公開講座や患者向け教室は新型コロナの影響で開催を見送ったが、「リウマチ教室」については患者・家族に向けて教育内容をwebや資料配布等で継続的に公開した。岡山市地域ケア総合推進センターと共同開催する「まちかど心不全教室」は全6回予定のうち、年度内で2回を実施予定だったが、新型コロナの影響で1回の実施となり、残りは次年度へ延期となった。</p> <p>また、連携医療機関向けには、医療機関向け広報誌の定期発行、診療体制や診療内容・実績等をまとめた広報物の作成・配布を実施し、当院への患者紹介の促進を図った。</p> <p>せのお病院では、例年、近隣公民館で市民公開講座の開催、ふれあいセンターで看護師による健康相談を実施しているが、新型コロナの影響で開催は半数程度となった。</p>	B	A	<p>新聞・テレビ・ラジオを通じた情報発信については件数は減少したものの継続して実施できている。新型コロナの影響で講座等が予定どおり実施できなかったものの、webでの資料公開や資料送付等による代替を進めているうえ、「まちかど心不全教室」などの新しい取組もあり、高く評価できる。</p>

4 地域医療ネットワークの推進

(1) 地域医療連携の推進

中期目標	岡山大学をはじめとした急性期病院間での適切な役割分担を進めるとともに、回復期・慢性期の医療機関等、保健医療福祉関係機関との連携及び協力体制の充実を図ることにより、地域医療ネットワークの確立に努めること。 また、地域医療連携を円滑に行っていくため、地域の医療機関との診療情報の共有化を図ること。
------	---

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>急性期から回復期、慢性期、在宅まで切れ目のない医療を市民へ提供できるように地域医療ネットワークの確立に努める。そのために、岡山大学をはじめとした地域の各医療機関との適切な役割分担のもと、病院間、病院と診療所間の連携を促進するとともに、保健医療福祉関係機関との連携及び協力体制の充実を図る。</p> <p>市民病院は、脳卒中、大腿骨頸部骨折、がん等地域連携クリティカルパスの適用を推進するとともに、医療ネットワーク岡山（晴れやかネット）への参加によるカルテ情報の共有等により、地域医療機関との円滑な連携をより一層推進する。</p> <p>また、岡山県がん診療連携推進協議会を通じて連携拠点病院と協力してがん診療を進めていく。</p>	<p>急性期から回復期、慢性期、在宅まで切れ目のない医療を市民へ提供するため、岡山大学をはじめとする地域の各医療機関との適切な役割分担のもと、病院間、病院と診療所間の連携を促進し、保健医療福祉関係機関とも連携及び協力体制の充実を図る。</p> <p>近隣の病院を中心とした「市民病院地域ネットワーク」を確立し、ICTを活用した各病院の空床情報の共有等、各病院の機能、役割を明確にし、地域全体の医療体制強化、病院間の緊密な連携を図る。</p> <p>さらに、地域のかかりつけ医との医療連携も促進し、地域完結型の医療提供体制が構築できるよう努める。</p> <p>また、医療ネットワーク岡山（晴れやかネット）やカルナコネク（インターネットにより紹介患者のオンライン予約や予約状況の照会を行える患者受診予約システム）により、地域医療機関との情報の共有を図るとともに、脳卒中、大腿骨頸部骨折等地域連携クリティカルパスの適用により、地域医療機関との連携をより一層推進する。</p> <p>さらに、岡山県がん診療連携推進協議会を通じて、連携拠点病院と協力し</p>	<p>地域医療支援病院として、地域の保健・医療・福祉情報を把握し、地域医療を支援した。</p> <p>前年度に続き新型コロナの影響で、受診患者数・入院患者数ともに減少傾向が続いており、紹介率・逆紹介率においてもともに減少したが、目標値は上回った。</p> <p>地域の医療機関への訪問や集合型の研修会開催が困難な状況の中、情報通信技術（ICT）を用いたオンライン形式によるカンファレンス、会議、連携研修会の開催や広報誌の発刊等を積極的に取り入れ、引き続き、顔の見える関係の維持・発展を目指した。</p> <p>退院支援については、急性期治療が終了した患者の在宅復帰や転院調整を円滑に行えるよう、ニーズを早期に把握するとともに、地域との連携・継続支援が必要な事例や困難事例等に対し、院内・院外の医療・福祉関係者と多職種で連携して行った。</p> <p>市民病院地域ネットワーク（病病連携の会）や医療ネットワーク岡山（晴れやかネット）を活用した空床情報共有の運用を継続し、カルナコネク（インターネットにより紹介患者のオンライン予約や予約状況の照会を行える患者受診予約システム）の普及にも努めた。</p> <p>脳卒中、大腿骨頸部骨折や心不全等の患者については、地域連携クリティカルパスを活用し、円滑なリハビリや地域生活への移行を目指した。また、「岡山も脳ネット（大腿骨頸部骨折・脳卒中パス）」や「安心ハートネット（心筋梗塞・心不全パス）」へ継続的</p>	A	A	<p>コロナの影響で減少した患者数が戻り切らない中、紹介患者予約件数は目標を下回ったものの、ICTを活用したオンラインカンファレンス・研修会により地域の医療機関との連携を維持し、紹介率等の指標は目標を達成しており、高く評価できる。</p>

<p>【目標値】 市民病院</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率 ※1</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率 ※2</td> <td>70.0%</td> </tr> <tr> <td>地域連携クリティカルパス適用件数</td> <td>260件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 紹介率＝（紹介患者数／初診患者数）×100 ※2 逆紹介率＝（逆紹介患者数／初診患者数）×100 ※紹介率、逆紹介率ともに地域医療支援病院の要件を目標値としている。 また、紹介率については、岡山ERの充実（紹介状のない日中のwalk in患者に対する断らない救急の実現）、逆紹介率については、患者の状態に応じて、診療情報提供料を算定できない情報提供先への紹介を行なうことも考慮している。</p>	項目	令和3年度目標	紹介率 ※1	50.0%	逆紹介率 ※2	70.0%	地域連携クリティカルパス適用件数	260件	<p>てがん診療を進めていく。</p> <p>【目標値】 市民病院</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率 ※1</td> <td>50.0%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率 ※2</td> <td>70.0%</td> </tr> <tr> <td>地域連携クリティカルパス適用件数</td> <td>260件</td> </tr> <tr> <td>紹介患者予約件数</td> <td>8,000件</td> </tr> <tr> <td>うちカルナコネク トによる予約（紹介患者受診予約システム）</td> <td>2,000件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 紹介率＝（紹介患者数／初診患者数）×100 ※2 逆紹介率＝（逆紹介患者数／初診患者数）×100</p>	項目	令和3年度目標	紹介率 ※1	50.0%	逆紹介率 ※2	70.0%	地域連携クリティカルパス適用件数	260件	紹介患者予約件数	8,000件	うちカルナコネク トによる予約（紹介患者受診予約システム）	2,000件	<p>に参加し、地域の医療機関やかかりつけ医と連携した。</p> <p>がんの分野では、岡山県がん診療連携協議会の各会、部会に出席し、拠点病院と連携を深めた。また、がんセンターボードについては前年度に引き続き定期的に開催した。</p> <p>なお、がん相談支援センターの相談件数は前年度28件から93件と増加した。</p> <p>【実績値】 市民病院</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>紹介率 ※1</td> <td>66.0%</td> <td>70.0%</td> <td>60.3%</td> </tr> <tr> <td>逆紹介率 ※2</td> <td>90.7%</td> <td>95.7%</td> <td>85.5%</td> </tr> <tr> <td>地域連携クリティカルパス適用件数</td> <td>370件</td> <td>379件</td> <td>323件</td> </tr> <tr> <td>紹介患者予約件数</td> <td>7,609件</td> <td>4,254件</td> <td>6,625件</td> </tr> <tr> <td>うちカルナコネク トによる予約（紹介患者受診予約システム）</td> <td>1,902件</td> <td>1,584件</td> <td>1,836件</td> </tr> </tbody> </table> <p>※1 紹介率＝（紹介患者数／初診患者数）×100 ※2 逆紹介率＝（逆紹介患者数／初診患者数）×100</p> <p>【晴れやかネット開示件数】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>晴れやかネット開示件数</td> <td>153件</td> <td>199件</td> <td>177件</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	紹介率 ※1	66.0%	70.0%	60.3%	逆紹介率 ※2	90.7%	95.7%	85.5%	地域連携クリティカルパス適用件数	370件	379件	323件	紹介患者予約件数	7,609件	4,254件	6,625件	うちカルナコネク トによる予約（紹介患者受診予約システム）	1,902件	1,584件	1,836件	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	晴れやかネット開示件数	153件	199件	177件			
項目	令和3年度目標																																																								
紹介率 ※1	50.0%																																																								
逆紹介率 ※2	70.0%																																																								
地域連携クリティカルパス適用件数	260件																																																								
項目	令和3年度目標																																																								
紹介率 ※1	50.0%																																																								
逆紹介率 ※2	70.0%																																																								
地域連携クリティカルパス適用件数	260件																																																								
紹介患者予約件数	8,000件																																																								
うちカルナコネク トによる予約（紹介患者受診予約システム）	2,000件																																																								
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																																						
紹介率 ※1	66.0%	70.0%	60.3%																																																						
逆紹介率 ※2	90.7%	95.7%	85.5%																																																						
地域連携クリティカルパス適用件数	370件	379件	323件																																																						
紹介患者予約件数	7,609件	4,254件	6,625件																																																						
うちカルナコネク トによる予約（紹介患者受診予約システム）	1,902件	1,584件	1,836件																																																						
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																																						
晴れやかネット開示件数	153件	199件	177件																																																						

【目標値】 せのお病院（再掲）		【目標値】 せのお病院（再掲）		【実績値】 せのお病院（再掲）						
項目	令和 3年度 目標	項目	令和 3年度 目標	項目	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績			
紹介率 ※1	40.0%	紹介率 ※1	40.0%	紹介率 ※1	55.7%	78.9%	68.6%			
逆紹介率 ※2	57.0%	逆紹介率 ※2	57.0%	逆紹介率 ※2	58.8%	95.8%	98.5%			
※1 紹介率 = (紹介患者数 / 初診患者数) × 100		※1 紹介率 = (紹介患者数 / 初診患者数) × 100		※1 紹介率 = (紹介患者数 / 初診患者数) × 100						
※2 逆紹介率 = (逆紹介患者数 / 初診患者数) × 100		※2 逆紹介率 = (逆紹介患者数 / 初診患者数) × 100		※2 逆紹介率 = (逆紹介患者数 / 初診患者数) × 100						

(2) 在宅医療を含む地域医療への支援

中期目標	ア 地域医療支援病院として高度医療機器等の共同利用や開放病床の利用を促進するなど地域の医療機関を支援し、在宅医療の推進に向けた取組を実施すること。
------	---

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>ア 在宅医療については、患者やその家族の意向を尊重しながら、疾病を抱えていても在宅で生活を送れるよう、地域の保健医療福祉関係機関と連携体制を構築し、切れ目のない医療を提供するとともに、緊急時には入院が受け入れられる体制を強化する。</p> <p>また、地域医療支援病院として引き続き地域の医療機関に対する開放病床や検査機器等の共同利用を促進する。</p>	<p>ア 病診連携研修会（3S会）、地域医療連携研修会、がんセンター等の各研修会を開催し、地域の保健医療福祉関係機関へ情報発信を行うなど、相互に顔の見える連携関係を維持する。</p> <p>また、在宅復帰率の維持・向上を図るため、在宅移行を見据えた医療・介護連携の促進を図り、退院前カンファレンスを積極的に開催し、円滑な在宅移行を目指す。</p> <p>地域医療支援病院として、引き続き地域の医療機関に対する開放病床や高度医療機器（CT・MRI）の共同利用を促進するとともに、岡山市歯科医師会との連携により入院患者の口腔ケアへの介入や、地域の医療機関、在宅・介護施設の感染防止対策について研修や演習支援（手指衛生、個人防護具の着脱演習等）を行い、地域医療の支援に取り組む。</p>	<p>ア 北区中央地域保健医療福祉連携懇話会の流れをくむ北区中央地域多職種連携会議に入退院管理支援センターのスタッフが継続的に参加し、地域のかかりつけ医や医療・看護・介護事業者のニーズ把握に努めた。また、介入が困難なケースについて、岡山市地域ケア総合推進センターへ相談するなど、協働を図った。</p> <p>在宅医療の更なる推進を目指した取組を継続し、在宅復帰率は前年と同水準を維持し、目標値を上回った。</p> <p>退院前カンファレンスは、感染予防対策を考慮した結果、webでの開催も行ったが、従来の集合形式による開催が制限されたため、開催数は目標値を大きく下回った。</p> <p>カンファレンス、会議、連携研修会等は、新型コロナの影響で、集合や対面形式が困難となったため、オンライン形式によるカンファレンス、会議、連携研修会等の開催に努めた。また、岡山市地域ケア総合推進センターと定期的な会議を持ち、共同で患者教室を実施し、市内退院支援職員向け研修会に協力するなど連携を強化した。</p> <p>カルナコネクは引き続き普及活動を行い、CTやMRI等の医療機器の共同利用件数は前年度よりも増加した。</p> <p>入院中の歯科治療への介入について、岡山市歯科医師会と連携し実施している訪問診療はコロナ禍により停止したため、歯科治療が必要な患者に対し、手術や治療前の受診勧奨を積極的に行った。</p>	B	B	<p>退院前カンファレンスについては前年度同様目標値を大きく下回ったが、新型コロナの影響もあり、web形式等の対策をとったうえでも実施できなかったものについてはやむを得ないと考えられる。CT等の共同利用件数は前年度より増加しているほか、他職種連携会議への参加等の取組も、コロナの制限がある中で継続しており、概ね計画どおり実施していると評価できる。</p>

【目標値】		【目標値】		【実績値】				
項目	令和3年度目標	項目	令和3年度目標	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	
在宅復帰率	80.0% ※	在宅復帰率	80.0%	在宅復帰率	91.2%	89.2%	88.4%	
退院前カンファレンスの開催	700件	退院前カンファレンスの開催	700件	退院前カンファレンスの開催	742件	173件	99件	
※急性期病院に求められる診療報酬の施設基準とする。(平成29年度時点の基準は80%)在宅復帰率については、患者の状態に応じて退院先が施設基準の対象外となることも考慮し、診療報酬の基準を目標値としている。		医療機器共同利用件数	CT:520件 MRI:700件	医療機器共同利用件数	CT	540件	393件	422件
					MRI	673件	525件	720件
				【市民病院】				
				項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	
				地域医療機関等の参加する講演会開催数	15回	11回	8回	
				(内訳)				
				講演会	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	
				市民病院主催	9回	9回	5回	
				3S会(※)	3回	2回	3回	
				救急症例検討会	3回	0回	0回	
				計	15回	11回	8回	
				※診療機関と市民病院による市民のための研究会				

中期目標

イ 医師の偏在等による医師不足が深刻な地域の医療機関へ医師を派遣するなど人的支援に努めること。また、自治体病院間の連携において、中心的な役割を果たし、地域医療を支えること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価																									
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																								
イ 医師の偏在等による医師不足が深刻な地域の医療機関へ医師を派遣するなど人的支援に努める。また、自治体病院間の連携において、地域医療を担う医師の教育や地域定着への貢献に努めることにより地域医療を支える。	イ 医師の偏在等による医師不足が深刻な地域の医療機関への医師派遣等による人的支援に努める。 また、自治体病院間の連携において中心的な役割を果たし、地域医療を支える。	イ 前年度と同様に、岡山市内外の医療機関への人的支援を継続して実施した。特に福渡病院は、医師派遣回数を増やした。 若い医師（研修医）を中心に派遣し、医師不足が懸念される地域の医療に貢献するとともに、将来の地域医療を担う医師の人材育成に努めた。 新型コロナ拡大により、一部の医療機関には派遣を見送る場面もあったが、可能な限り支援した。 また、岡山県自治体病院協議会の事務局（院長が会長）として、自治体病院間の連携において、中心的な役割を果たした。	A	A	前年同様の派遣体制を維持しつつ、一部派遣回数を増加した病院もあり、引き続き自治体病院間連携において医師派遣の中心的役割を果たしているものとして高く評価できる。																								
		【医師派遣先】																											
		<table border="1"> <thead> <tr> <th>病院名</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>美作市立大原病院</td> <td>毎週土曜日 日当直1人</td> <td>毎週土曜日 日当直1人</td> <td>毎週土曜日 日当直1人</td> </tr> <tr> <td>湯原温泉病院</td> <td>毎週木曜日 1人</td> <td>毎週木曜日 1人</td> <td>毎週木曜日 1人</td> </tr> <tr> <td>倉敷市立市民病院</td> <td>毎週月曜日 午前1人 午後1人 毎週水曜日 午前1人</td> <td>毎週月曜日 午前1人 午後1人 毎週水曜日 午前1人</td> <td>毎週月曜日 午前1人 午後1人 毎週水曜日 午前1人</td> </tr> <tr> <td>瀬戸内市市民病院</td> <td>派遣要請なし</td> <td>派遣要請なし</td> <td>派遣要請なし</td> </tr> <tr> <td>福渡病院</td> <td>第3月曜日 1人 第2・4木曜日 1人 第1・2・4 土曜日 日当直</td> <td>第3月曜日 1人 第2・4木曜日 1人 第1・2・4 土曜日 日当直</td> <td>第1・3・5 月曜日 1人 毎週火曜日 午前1人 毎週木曜日</td> </tr> </tbody> </table>		病院名	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	美作市立大原病院	毎週土曜日 日当直1人	毎週土曜日 日当直1人	毎週土曜日 日当直1人	湯原温泉病院	毎週木曜日 1人	毎週木曜日 1人	毎週木曜日 1人	倉敷市立市民病院	毎週月曜日 午前1人 午後1人 毎週水曜日 午前1人	毎週月曜日 午前1人 午後1人 毎週水曜日 午前1人	毎週月曜日 午前1人 午後1人 毎週水曜日 午前1人	瀬戸内市市民病院	派遣要請なし	派遣要請なし	派遣要請なし	福渡病院	第3月曜日 1人 第2・4木曜日 1人 第1・2・4 土曜日 日当直	第3月曜日 1人 第2・4木曜日 1人 第1・2・4 土曜日 日当直	第1・3・5 月曜日 1人 毎週火曜日 午前1人 毎週木曜日		
病院名	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																										
美作市立大原病院	毎週土曜日 日当直1人	毎週土曜日 日当直1人	毎週土曜日 日当直1人																										
湯原温泉病院	毎週木曜日 1人	毎週木曜日 1人	毎週木曜日 1人																										
倉敷市立市民病院	毎週月曜日 午前1人 午後1人 毎週水曜日 午前1人	毎週月曜日 午前1人 午後1人 毎週水曜日 午前1人	毎週月曜日 午前1人 午後1人 毎週水曜日 午前1人																										
瀬戸内市市民病院	派遣要請なし	派遣要請なし	派遣要請なし																										
福渡病院	第3月曜日 1人 第2・4木曜日 1人 第1・2・4 土曜日 日当直	第3月曜日 1人 第2・4木曜日 1人 第1・2・4 土曜日 日当直	第1・3・5 月曜日 1人 毎週火曜日 午前1人 毎週木曜日																										

			各 1 人	各 1 人	午前 1 人 毎週金曜日 午前 1 人 午後 1 人 第 1 土曜日 午前 1 人 第 1・2・4 土曜日 日当直各 1 人			
	玉野市民 病院	毎週月曜日 1 人 毎週火曜日 勤務・当直 各 1 人 第 1・3 水曜日 午前 1 人 毎週水曜日 勤務 (午 前) ・当直 各 1 人	毎週月曜日 1 人 毎週火曜日 勤務・当直 各 1 人 第 1・3 水曜日 午前 1 人 毎週水曜日 勤務 (午 前) 2 人 当直 1 人	毎週月曜日 1 人 毎週火曜日 勤務・当直 各 1 人 第 1・3 水曜日 午前 1 人 毎週水曜日 勤務 (午前) 3 人 当直 1 人				
	矢掛病院	毎週月・金曜日 午後 1 人	毎週月・水・金曜日 午後 1 人	毎週月・水・金曜日 午後 1 人				

5 教育及び人材育成

中期目標

地域医療を担う医師等の安定的・継続的確保に貢献するため、岡山地域において医師等の教育機関である岡山大学と共同し、救急専門医や総合診療医の育成を目的とした連携大学院等を活用した教育・人材育成の強化を図ること。
また、研修医を積極的に受け入れるとともに、医学生をはじめとする研修生・実習生に対する教育の充実など、医療従事者の育成に努めること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>院内外からの医師に対する教育及び人材育成の質の向上のため、卒後臨床教育研修センターをより一層充実させ、必要な医師のリクルートや専門医研修に関する業務を集中管理する。加えて、岡山大学と共同し、市民病院を臨床研究の場とする連携大学院での総合診療医や救急医の育成等地域医療を担う人材の安定的・継続的確保に貢献する。</p> <p>また、平成29年10月から市民病院内で運用を開始した人材開発センターを本格的に稼働させ、新人採用から管理職までキャリア別のプログラムにより、職員の教育及び人材育成に関わる業務について一元管理のもと、知識・技術、マネジメント能力、組織人としての能力向上を目指した教育研修体制を整備する。</p> <p>さらに、研修医や医学生に対して日常の診療カンファレンスとは別に研修会を実施するとともに、看護師や救命救急士、学生等の実習生を積極的に受け入れる。</p>	<p>岡山大学と協働し、市民病院を実地臨床の場や臨床研究に必要な人材教育の場として活用し、地域医療や救急医療に関する研究教育を行うとともに、市民病院で総合診療を行う医師のための実践総合診療学講座、救急医のための実践救急医学講座及び地域医療のできる外科医のための実践地域総合外科学が開講されており、これら連携大学院の活用により人材を育成する。</p> <p>また、ICLS（蘇生トレーニングコース）やJMECC（内科救急講習会）等の認定コースを開催し、医療の質の維持・効能のため認定資格取得を継続して支援する。</p> <p>さらに、職員の教育及び人材育成に関わる業務について人材開発センターの強化により、新人採用から管理職までキャリア別のプログラムにより、知識・技術、マネジメント能力、組織人としての能力向上を目指した教育研修体制を充実させ、実施する。</p> <p>加えて、研修医に対して、研修会、診療カンファレンスを実施するとともに、医師、看護師、薬剤師、栄養士を目指す学生や救急救命士等の実習生を積極的に受け入れ、職員以外の多種職の医療従事者に対する教育にも貢献す</p>	<p>研修医の受入れは、100%（目標値：100%）対応した。</p> <p>連携大学院制度においても大学病院との連携を深め、実践総合診療学講座、実践救命救急・災害医学講座・実践地域総合外科学講座を維持し、引き続き救急医療現場での人材育成体制を強化した。</p> <p>指導医教育にも取り組み、臨床研修指導医は前年度から1名増の52名となった。</p> <p>ICLSやJMECC等の認定コースを開催し、医療の質の維持・効能のため認定資格取得を継続して支援した。</p> <p>組織体制として、令和3年5月に立ち上げた人材開発室（人材開発センターから事業引継ぎ）を中心に、新人採用から管理職まで階層別にキャリアに応じたプログラムを計画し、研修を開始した。また、研修後に振り返りの評価も行い、次年度以降に反映させる運用を開始した。</p> <p>研修医・医学生への研修会実施回数は9回、研修医の参加するカンファレンスは63回とどちらも新型コロナの影響で目標値には満たなかった。</p> <p>救急救命士の実習については、依頼された実習を100%受け入れ、救命救急士のスキルアップに貢献した。</p>	A	A	<p>コロナ禍にあっても研修医の受入れは100%対応しており、岡山大学との連携を高い水準で維持している。研修医が参加する研修会・カンファレンスはコロナの影響もあり目標回数に達しなかったが、救命救急士の実習依頼に全て対応したほか、指導医教育により臨床研修指導医を1名増員しており、高く評価できる。</p>

【目標値】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応需率</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>研修医・医学生への研修会実施回数</td> <td>12回</td> </tr> <tr> <td>研修医が参加するカンファレンスの回数</td> <td>80回</td> </tr> </tbody> </table>		項目	令和3年度目標	大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応需率	100%	研修医・医学生への研修会実施回数	12回	研修医が参加するカンファレンスの回数	80回	る。 【目標値】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応需率</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>研修医・医学生への研修会実施回数</td> <td>12回</td> </tr> <tr> <td>研修医が参加するカンファレンスの回数</td> <td>80回</td> </tr> </tbody> </table>		項目	令和3年度目標	大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応需率	100%	研修医・医学生への研修会実施回数	12回	研修医が参加するカンファレンスの回数	80回	【実績値】 <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応需率</td> <td>100%</td> <td>100%</td> <td>100%</td> </tr> <tr> <td>研修医・医学生への研修会実施回数</td> <td>12回</td> <td>12回</td> <td>9回</td> </tr> <tr> <td>研修医が参加するカンファレンスの回数</td> <td>91回</td> <td>44回</td> <td>63回</td> </tr> </tbody> </table>				項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応需率	100%	100%	100%	研修医・医学生への研修会実施回数	12回	12回	9回	研修医が参加するカンファレンスの回数	91回	44回	63回			
項目	令和3年度目標																																									
大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応需率	100%																																									
研修医・医学生への研修会実施回数	12回																																									
研修医が参加するカンファレンスの回数	80回																																									
項目	令和3年度目標																																									
大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応需率	100%																																									
研修医・医学生への研修会実施回数	12回																																									
研修医が参加するカンファレンスの回数	80回																																									
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																																							
大学の研修医・医学生の研修受入要請に対する応需率	100%	100%	100%																																							
研修医・医学生への研修会実施回数	12回	12回	9回																																							
研修医が参加するカンファレンスの回数	91回	44回	63回																																							

6 保健・医療・福祉連携への貢献

(1) 保健医療福祉行政への協力

中期目標	市民病院内に市が設置している保健・医療・福祉連携に係る総合相談窓口である地域ケア総合推進センターと密接に連携し、患者の退院後の生活支援や市民からの医療に係る専門的な相談に対する支援等の役割を担うこと。 また、市の保健医療福祉部門との情報交換等により連携を推進すること。
------	---

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価													
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等												
市民病院内に市が設置している地域ケア総合推進センターと密接に連携し、共催で多職種研修会を開催する。加えて、地域における医療、介護の専門職の人材育成への協力、市民との意見交換会の開催を継続していく。 また、退院調整における困難事例については、地域ケア総合推進センターと協働し、多職種間で情報を共有しながら支援していく。	市民病院及び地域ケア総合推進センターの医療・保健・福祉専門職相互の交流、協働を図り、患者の退院後の生活や市民からの医療相談に対して、多職種連携による切れ目のない支援を展開する。 さらに、支援事例の検討会やそれぞれが企画する研修会等の事業への協力等、協働した活動を企画する。 また、市の保健医療福祉部門との連携を推進するため、情報交換の機会を設けるなど、関係各部門・部署の相互協力を図る。 【目標値】 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> <tr> <td>地域ケア総合推進センターと入退院管理支援センターで実施するカンファレンス</td> <td>6回</td> </tr> </table>	項目	令和3年度目標	地域ケア総合推進センターと入退院管理支援センターで実施するカンファレンス	6回	コロナ禍の影響で令和元度末に岡山市役所に一時移転していた岡山市地域ケア総合推進センターが前年度当院に隣接する健康・医療・福祉系施設内に移転となり、より一層の医療・保健・福祉専門職相互の交流、協働を図れるように、患者の退院後の生活や市民からの医療相談に対して、多職種連携による切れ目のない支援を展開した。今年度は、地域ケア総合推進センターと入退院管理支援センター間の情報共有等の促進のため、月1回程度の会議を実施し、その中で市民向けの患者教室の開催や退院支援職員研修への協力等、協働で事業を実施することができた。 地域の保健医療福祉関係団体との連携については、岡山市北区中央コア会議はオンライン・対面のハイブリッドで開催が継続され、担当者が毎回参加した。北児島ケアネット及び北長瀬カフェについては、前年度に引き続き、コロナ禍の影響で開催がなかった。 【実績値】 <table border="1" style="width: 100%; text-align: center;"> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> <tr> <td>地域ケア総合推進センターと入退院管理支援センターで実施するカンファレンス</td> <td>5回</td> <td>7回</td> <td>10回</td> </tr> </table>	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	地域ケア総合推進センターと入退院管理支援センターで実施するカンファレンス	5回	7回	10回	A	A	地域ケア総合推進センターとのカンファレンス回数は目標値を上回る月1回程度の頻度で実施できており、退院支援等での密接な連携につながるものとして高く評価できる。
項目	令和3年度目標																
地域ケア総合推進センターと入退院管理支援センターで実施するカンファレンス	6回																
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績														
地域ケア総合推進センターと入退院管理支援センターで実施するカンファレンス	5回	7回	10回														

		<p>【保健医療福祉関係団体等との連携会議】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>会議名</th> <th>令和 元年度 実績</th> <th>令和 2年度 実績</th> <th>令和 3年度 実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>岡山市北区中央コア会議</td> <td>2回</td> <td>12回</td> <td>3回</td> </tr> <tr> <td>北児島ケアネット</td> <td>2回</td> <td>0回</td> <td>0回</td> </tr> <tr> <td>北長瀬カフェ</td> <td>10回</td> <td>0回</td> <td>0回</td> </tr> </tbody> </table>	会議名	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績	岡山市北区中央コア会議	2回	12回	3回	北児島ケアネット	2回	0回	0回	北長瀬カフェ	10回	0回	0回			
会議名	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績																		
岡山市北区中央コア会議	2回	12回	3回																		
北児島ケアネット	2回	0回	0回																		
北長瀬カフェ	10回	0回	0回																		

(2) 疾病予防の取組

中期目標

市民に対する健康支援講座の開催や健康支援に係る相談等、引き続き市民の疾病予防に向けて取り組むこと。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価																					
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																				
市民の健康を守るため、市民に対して健康支援講座を定期的に開催するとともに、健康支援に係る相談に応じるなど引き続き市民の疾病予防に向けて取り組む。	<p>市民の疾病予防のための取組として、栄養管理委員会が主催する市民公開講座を開催する。</p> <p>医師による講演、リハビリスタッフによる運動療法、管理栄養士による食事指導と試食会、血圧、血糖、体脂肪、肥満度の測定、多職種スタッフによる健康相談を組み合わせた体験型の健康支援講座を行う。</p> <p>また、ソーシャルメディアを用いた健康情報の発信等、市民への広報活動も充実させる。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和3年度目標</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栄養管理委員会で行う市民公開講座実施回数</td> <td>1回</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和3年度目標	栄養管理委員会で行う市民公開講座実施回数	1回	<p>コロナ禍のため、市民公開講座は開催できなかった。</p> <p>院外患者向け定期刊行雑誌「岡山市立市民病院だより 北長瀬の風」に、疾病の予防や検査の重要性を掲載した。</p> <p>また、フェイスブックやツイッター等で情報発信を行い、令和4年5月開始に向けてwebマガジンの計画準備を開始した。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>栄養管理委員会で行う市民公開講座実施回数</td> <td>2回</td> <td>0回</td> <td>0回</td> </tr> </tbody> </table> <p>【市民公開講座参加者】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>参加者数</td> <td>108名</td> <td>0名</td> <td>0名</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	栄養管理委員会で行う市民公開講座実施回数	2回	0回	0回	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	参加者数	108名	0名	0名	B	B	前年度に引き続き、コロナ禍で公開講座が実施できなかったが、広報紙やSNSを通じた情報発信を継続したほか、新たにwebマガジンの準備を始めるなど、広報活動の充実に取り組んでおり評価できる。
項目	令和3年度目標																								
栄養管理委員会で行う市民公開講座実施回数	1回																								
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																						
栄養管理委員会で行う市民公開講座実施回数	2回	0回	0回																						
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																						
参加者数	108名	0名	0名																						

第2 業務運営の改善及び効率化に関する目標を達成するためとるべき措置

1 業務運営体制の構築

(1) 業務運営体制の構築

中期目標	地方独立行政法人制度の特長をいかし、独立した経営体として、主体性をもって意思決定し、迅速に行動できるよう、理事会を中心とした体制を整備するとともに、職員の病院運営に対する意識の醸成を図るなど自律性を発揮できる効果的な運営体制の構築を図ること。
-------------	---

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>地方独立行政法人制度の特長をいかし構築された独立した経営体として、理事長による最高責任者としてのリーダーシップのもと、より一層迅速な意思決定と効率的な運営体制を強化する。それにより、医療情勢の変化や患者ニーズ、各病院の特性や実情に応じた機動性の高い業務改善を図る。加えて、役員による職務執行と内部統制のもと、業務の適正を確保するための体制を構築していく。</p> <p>また、市立総合医療センター全体としては、長期的な視点を踏まえ、柔軟かつ一体的な運営管理を行う。</p>	<p>アフターコロナを見据えた運営体制を構築するため、各病院の特性や実情に応じた業務改善の実施や、運営体制の適正化を図る。</p>	<p>理事長の指示のもと、新型コロナに関しては県や市からの要請に迅速に対応するための整備や教育を実施しながら、各病院の課題に取り組んだ。</p> <p>市民病院では新型コロナ患者の積極的な受入を継続しながら、通常急性期医療にも対応できる病院を目指し、ICUの個室化や病棟再編、また重症対応看護師育成の継続等に取り組んだ。</p> <p>せのお病院では、地域医療の実践病院として訪問診療に加え、訪問リハビリテーションを行う準備を開始した。また、コロナ禍による面会制限への対応としてオンライン面会やオンラインによる退院調整を行った。</p> <p>なお、法人全体の運営等について業務内容を見直し、組織構成の変更を行った。</p>	B	B	<p>新型コロナに対応しつつ、市民病院では一般救急・感染症の両方に対応できる施設整備や人材育成に取り組み、せのお病院では地域医療の実践病院として訪問リハビリの準備を進めるなど、今後を見据えた運営体制の構築を進めている。</p>

(2) 多様な人材の確保

中期目標

- 医療提供体制の安定化を図り、医療水準を向上させるため、多様で優秀な人材の確保に努めること。
- ア 医師の人材確保
市立病院において提供する医療水準を向上させるため、優秀な医師の確保に努めるとともに、臨床研修医及び後期研修医を育成すること。
- イ 看護師及び医療技術職員の人材確保
関係教育機関等との連携を強化し、優れた看護師及び医療技術職員の確保に努めること。
- ウ 事務職員の人材確保及び育成強化
病院運営に関する専門知識や経営感覚が求められることから、必要な人材を確保・育成し、組織としての専門性を高めること。
- エ 育児支援等による人材確保
育児と業務の両立支援等多様な人材を活用できる体制を確保すること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>医療提供体制の安定化を図り、医療水準を向上させるため、多様で優秀な人材の確保に努める。そのために、地方独立行政法人の特長をいかした職員採用を進め、優秀な人材を適宜確保する。加えて、法人が担うべき医療を提供するための人員を長期的に確保するため、職員の定着に努める。</p> <p>医療従事者については、大学等関係教育機関との連携や採用のための広報活動をこれまで以上に強化するとともに、初期臨床研修医の確保と育成に取り組む。さらに、新内科専門医制度の基幹病院として後期研修医の確保と育成に努める。</p> <p>事務職員については、病院経営に関する知識、経験を有する人材を計画的に採用するとともに、長期的な観点から新卒者の採用と育成に努める。</p> <p>また、育児支援や職場復帰に関わる制度等職員が働きやすく復帰しやすい環境を整える。</p>	<p>医療提供体制の安定化を図り、医療水準を向上させるために多様で優秀な人材の確保・育成に努める。</p> <p>医療従事者については、高度な医療を効率的に提供できるように質の高い人材の確保・育成に努め、定着体制の整備に努める。</p> <p>初期臨床研修医については、県外からの応募者が増加している傾向を鑑み、広報活動を強化するとともに育成のための教育体制の更なる強化に取り組む。</p> <p>後期研修医については、内科専門医制度の基幹病院としての役割を果たせるよう広報活動及び教育体制を整えるとともに、連携施設や特別連携施設との関係を強化し、その他の領域については連携施設として協力する。</p> <p>育児と業務を両立できるよう、育児支援や職場復帰に関わる制度等を、実態に即して整える。</p> <p>また、退職者の活用や非常勤職員の</p>	<p>初期臨床研修医のマッチングでは、応募は過去最高の32名あり、10名フルマッチした。その後、国家試験で1名不合格者が出たが、2次募集により1名採用となり、合わせて10名の採用となった。</p> <p>内科専門医制度の基幹施設として5年目となる今年度は、後期研修医を4名採用した（内定5名の内1名が体調不良のため辞退）。また、基幹プログラム以外の内科研修医1名（姫路日赤プログラム・10月から）を採用した。内科以外では、岡山大学基幹プログラムから通年で外科1名、脳神経外科1名、整形外科2名を採用した。その他、泌尿器科、救急科等連携施設として通年ではないが、後期研修医を採用した。専門プログラム以外での後期研修医は2名採用した。</p> <p>看護師については、経験者の確保のため、新卒採用とは別に経験者採用試験を実施した。また、それ以外の職種については、必要な人員数を確保するため、非正規の正規登用も含め採用試験を実施した。</p> <p>事務職員については、前年に引き続き特に重要な医事職員を中心に採用試験を実施した。</p> <p>地域医療連携、がん診療相談業務の拡充に伴い、MSWを3名採用した。</p> <p>また新型コロナの影響もあり、県外在住者に対して</p>	A	A	<p>初期臨床研修医の採用ではフルマッチを継続しているほか、看護師その他の職種についても、採用区分や試験方法を工夫することで優秀な人材の確保を図っており、高く評価できる。</p>

	<p>正規登用等、多様な人材活用を進めていく。</p>	<p>はwebで採用試験を実施するなど臨機応変に対応した。</p> <p>これらにより多数の応募者があり、採用数を十分に達成し体制を整えることができた。</p> <p>育児支援及び職場復帰支援については、育児休業者が医師1名、看護師32名、医療技術職員4名、事務4名で、女性の取得率は100%だった。また、上記のうち男性も3名（医療技術職員1名、事務2名）が育児休業を取得した。育児短時間勤務は看護師8名、部分休業は医師1名、看護師34名、医療技術職員8名、事務2名が利用し、うち1名（医療技術職員）は男性だった。</p> <p>【採用者数】</p> <table border="1" data-bbox="987 660 1563 1018"> <thead> <tr> <th>項目</th> <th>令和元年度実績</th> <th>令和2年度実績</th> <th>令和3年度実績</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>初期研修医マッチング</td> <td>12名</td> <td>10名</td> <td>10名</td> </tr> <tr> <td>後期研修医</td> <td>18名</td> <td>14名</td> <td>11名</td> </tr> <tr> <td>看護師</td> <td>29名</td> <td>33名</td> <td>40名</td> </tr> <tr> <td>医療技術員</td> <td>11名</td> <td>9名</td> <td>5名</td> </tr> <tr> <td>事務職員</td> <td>2名</td> <td>8名</td> <td>6名</td> </tr> <tr> <td>定年退職者の再雇用</td> <td>4名</td> <td>7名</td> <td>7名</td> </tr> </tbody> </table>	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	初期研修医マッチング	12名	10名	10名	後期研修医	18名	14名	11名	看護師	29名	33名	40名	医療技術員	11名	9名	5名	事務職員	2名	8名	6名	定年退職者の再雇用	4名	7名	7名			
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																														
初期研修医マッチング	12名	10名	10名																														
後期研修医	18名	14名	11名																														
看護師	29名	33名	40名																														
医療技術員	11名	9名	5名																														
事務職員	2名	8名	6名																														
定年退職者の再雇用	4名	7名	7名																														

(3) 外部評価等の活用

中期目標

病院機能評価等の評価項目に基づき業務運営の改善に努めるとともに、実効性の高い監査を実施し、監査結果に基づき必要な見直しを行うこと。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>平成26年度に実施した公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価結果に基づき、本中期計画期間中実施する病院機能評価（せのお病院：平成30年度実施、市民病院：令和元年度実施）までに指摘箇所の改善完了に向けて取り組む。当該病院機能評価実施後は新たな指摘事項への業務運営改善に努める。</p> <p>業務部分、経営部分の評価、見直しについては、医療の質に関する客観的な指標の分析や外部の評価機関による評価結果の分析、活用により、継続的な医療の質向上を図るとともに、監事や会計監査人による監査結果等に従い、より一層の内部統制の強化を図る。</p>	<p>公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価の認定を令和2年2月に受けた市民病院では、その評価結果に基づき、令和3年度も業務運営の改善に向けて継続的に取り組む。</p> <p>業務面においては、監事による業務監査、理事会における理事等からの助言、加えて、顧問弁護士に相談、助言を受けながら、引き続き内部統制の強化を図る。</p> <p>会計面においては、第2期中期計画最終年の4年目として、経営基盤の確立を目指していく。新型コロナの感染状況次第では、大変厳しい状況も予想されるが、引き続き当院の役割を果たすとともに、監事の監査や理事会での助言、加えて、会計監査法人による業務面における相談、助言を求めながら、経営強化を図る。</p>	<p>令和2年2月に認定を受けた公益財団法人日本医療機能評価機構の病院機能評価結果に基づき市民病院では、今年度も業務運営の改善に向けて、マニュアルの見直しや業務の改善に取り組んだ。</p> <p>業務面においては、監事による業務監査、理事会での助言、必要に応じた顧問弁護士への相談等、内部統制の強化を図った。</p> <p>会計面においては、引き続き監事による会計監査、理事会での助言に加え、財務諸表について監査法人による任意の監査のほか、会計処理に関してはアドバイザー契約を締結し、適宜相談、助言を受け、経営強化を図った。</p>	B	B	<p>業務監査・会計監査を受け、内部統制及び行運営改善に取り組んでいる。会計監査法人から助言を受けられる体制を整え、経営強化に取り組んでいることも評価できる。</p>

2 職員のやりがいと満足度の向上

(1) 研修制度の充実及び資格取得への支援

中期目標	医学の進歩による医療の高度化・専門化に対応して、常に高度かつ標準化した医療を提供できるよう、専門性及び医療技術の向上を図るため、医療スタッフの研修や資格取得支援等を充実すること。
------	---

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価																	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																
<p>専門性の向上に向けた研修制度の充実に加えて、職員の資格取得を奨励する制度を充実する。また、臨床研修指導医、専門医、認定医、認定看護師及び認定薬剤師等の資格取得を促進するとともに資格保持者の資格維持のための支援体制を整え、質の高い医療の提供体制を構築する。さらに、新内科専門医制度の開始に伴い、基幹病院としての体制を充実させる。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">項目</td> <td style="width: 50%;">令和3年度目標</td> </tr> <tr> <td>臨床研修指導医数</td> <td style="text-align: center;">40人</td> </tr> </table> <p>※臨床研修指導医については、市民病院の常勤医師数に対して適正な人数であると考えられる数値を目標値としている。</p>	項目	令和3年度目標	臨床研修指導医数	40人	<p>専門性の向上に向けた研修制度や職員の資格取得を奨励する制度について、引き続き検討する。</p> <p>看護師の特定行為に係る研修機関として特定行為研修修了者の増員を図るため、支援制度を充実させる。</p> <p>臨床研修指導医、専門医、認定医、認定看護師及び認定薬剤師等の資格取得を促進する。</p> <p>また、内科専門医制度で必須となっているJMECC（内科救急講習会）の開催を、引き続き市民病院で定期的に行う。</p> <p>【目標値】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 50%;">項目</td> <td style="width: 50%;">令和3年度目標</td> </tr> <tr> <td>臨床研修指導医数</td> <td style="text-align: center;">40人</td> </tr> </table>	項目	令和3年度目標	臨床研修指導医数	40人	<p>資格取得を奨励するため、奨学金貸与要綱の対象職種を拡大するなどの見直しを行った。</p> <p>看護師特定行為研修については、令和3年4月から市民病院内にセンターを開設し、院内で研修が可能となり、令和3年度の研修修了者は3名となった。</p> <p>認定看護師については、1名が修業年限を終了し、令和4年度に受験する予定となった。臨床研修指導医は52人となり、目標の40人及び前年度実績を上回った。</p> <p>内科専門医制度においては、研修医を5人採用した（内1名体調面を理由に辞退）。また、シーリングによる影響を考慮し、県外の連携施設、特別連携施設も追加し、研修医の施設外研修先を充実させた。</p> <p>内科専門医制度で必須となっている内科救急講習会（JMECC）については、院内で実施し、内科専門プログラム研修医5名が参加した。</p> <p>【実績値】</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="width: 25%;">項目</td> <td style="width: 12.5%;">令和元年度実績</td> <td style="width: 12.5%;">令和2年度実績</td> <td style="width: 12.5%;">令和3年度実績</td> </tr> <tr> <td>臨床研修指導医数</td> <td style="text-align: center;">51人</td> <td style="text-align: center;">51人</td> <td style="text-align: center;">52人</td> </tr> </table>	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	臨床研修指導医数	51人	51人	52人	A	A	<p>臨床研修指導医数は目標数を大きく上回る人数を確保し、指導体制の充実を図れているほか、病院内外の研修体制を整備するなど、医療スタッフの資格取得支援を推進しており高く評価できる。</p>
項目	令和3年度目標																				
臨床研修指導医数	40人																				
項目	令和3年度目標																				
臨床研修指導医数	40人																				
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																		
臨床研修指導医数	51人	51人	52人																		

【関連指標】		【関連指標】		【関連指標】						
項目	平成 28年度 実績	項目	令和 元年度 実績	項目	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績			
臨床研修指導医割合	70.5%	臨床研修指導医割合	65.8%	臨床研修指導医割合	65.8%	66.2%	62.6%			
専門医数	123人	専門医数	144人	専門医	144人	161人	163人			
認定医数	61人	認定医数	65人	認定医	65人	101人	104人			
認定看護師数	9分野 12人	認定看護師数	11分野 15人	認定看護師数	11分野 15人	11分野 15人	11分野 15人			
認定薬剤師数	5人	認定薬剤師数	8人	認定薬剤師数	8人	8人	14人			

(2) 適正な人事評価制度

中期目標

医療組織に適した職員の業績や能力、経験や職責等を反映した公正かつ適正な人事評価により職員のモチベーションを高めるように努めること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>平成28年10月から導入した新人事評価制度により、目標に対する成果を評価する業績評価、職務行動を評価する能力評価を引き続き実施し、職員的能力開発と人材育成を図っていく。また、評価者と被評価者が面談を行うことで法人の方向性を職員に伝達し、職員自らの組織内での役割を再確認させることで組織の活性化を図る。</p> <p>本中期計画期間においては、この制度を適切に運用していくとともに、実施した上での問題点や課題を抽出し、適宜見直しを行う。</p>	<p>人事評価制度に基づき適材適所に職員配置ができるよう、制度について職員全体への理解を深めていく。</p> <p>また、業績評価の実施に向けて法人の役割を職員全体で共有し、わかりやすい目標管理制度の構築を検討する。</p> <p>当該制度を周知しつつ、人事評価制度の実施が職員の業務負担にならないような実用性のある制度になるよう、制度の見直しとともにマニュアルの整備を行う。</p>	<p>人事評価制度について、研修は新型コロナの感染状況を考慮し、対面ではなくポータルサイトに研修動画と資料を掲載することで代替した。人事評価は新型コロナ対応業務と通常業務の両立を図り、職員負担も多い中ではあったが例年どおり実施した。</p>	B	C	<p>中期計画に掲げた人事評価制度のうち、業績評価についての実施状況が十分ではないと見受けられるため、円滑な実施に向けた検討を進めていただきたい。</p>

(3) 職場環境の整備

中期目標

職員のワークライフバランスや職場の安全確保、コミュニケーションの活性化等を通じて職場環境の改善を図り、働きやすく働きがいのある病院づくりに努めること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>職員が業務に専念できる職場環境の整備に向けて、働き方改革、院内保育のさらなる充実等職員満足度の向上を目指す。</p> <p>働き方改革として、業務体制の調査、見直しを行い、作業量削減に向けてタスクシフト等の仕組みを検討し、より効率的な体制への改善を図る。特に医師については、当直体制や過重労働等を中心に問題点を抽出し改善に努める。看護職員については、夜勤回数の増大を防ぐための体制を構築し、全看護職員の負担軽減ができるような協力体制を整備する。</p> <p>院内保育については、保育児童数が大幅に増加していることを踏まえ、万一定員超えになった場合にも対応できるような保育体制を実現させる。さらに、夜間保育についても需要に合わせて実施するなど、育児休業からの早期復帰をサポートしていく。</p>	<p>働き方改革に対応しながら医療の質を維持し、過重労働とならないようにするため、業務内容見直しによる業務効率の向上を図るとともに、職員全体の業務への取り組み方の意識改革を浸透させる。また、業務の効率化をはかるためのデジタル化の推進を検討する。</p> <p>医師の働き方については、タスクシフトを図るため看護師の特定行為研修修了者の育成やチーム医療の推進を図り、業務が集中しない体制づくりに努める。加えて、医師の勤務状態を把握し、実態に即した対策を講じていく。</p> <p>安全衛生管理室の業務を充実させ、超過労働対策やハラスメント対策等を強化するとともに職員満足度調査を実施しその分析を行い、課題解決を行うことで職員の安全配慮、環境改善を図る。</p> <p>看護職員の夜勤を軽減するための協力体制の構築や、夜勤体制等をサポートするため、通常保育・病児保育・夜間保育体制の運用維持に引き続き努め、職員が業務に専念できる職場環境を整備する。</p> <p>また、一時保育についても希望職員が利用しやすいような運用に改善し、育児と仕事の両立を支援していく。</p>	<p>新型コロナ拡大に伴う診療体制の変更による職員の負担を軽減するため、看護師を正規・非正規合わせ20名中途採用し増員した。また新型コロナに対応した職員への手当を増額するなど業務負担に対して適正に対応した。</p> <p>医師の働き方について、新型コロナ診療に関して新設したコロナ重症者入院時の宿直担当を内科以外の医師も含めて受け持つなど、一部に業務が集中しないように引き続き対応した。また、業務のデジタル化の推進を検討した。</p> <p>ハラスメント対策に係る研修は、新型コロナの影響により実施できなかった為、研修資料及びハラスメント防止方針をポータルサイトに掲載するなどにより職員への周知を行った。</p> <p>課題の早期発見のために職員満足度調査を実施し、今後のための分析を行った。調査結果について、満足度は他事業所の平均と比較して概ね上回っていた。</p> <p>看護師一人当たりの夜勤回数の軽減を図るため、子育て世代への夜勤協力の要請や、希望者による時限的な夜勤専従等を引き続き実施した。</p> <p>院内保育園においては、産休・育休による家庭での保育増加もあり、平日の1日当たり平均利用者数が10.7名と、前年度より約3.3名減少した。土日祝日の平均利用者数は新型コロナ対応による勤務者増員の影響もあり、2.2名と前年度より1.9名増加し、需要が増加した。</p> <p>病児保育においては、新型コロナの影響もあり1日平均0.1名で稼働した。</p>	B	B	<p>コロナ禍で医師・看護師の負担が増加する中、中途採用による増員や夜勤・宿直の調整等により対応しているほか、院内保育等による支援も継続しており、評価できる。</p>

【関連指標】

院内保育児童数（月極定員 30 人）

令和元年度実績	月平均 23.0 人
---------	------------

※県補助金実績報告様式 27-14 号より

※令和 3 年度は月極児童 10 名＋一時保育児童 13 名からスタート予定

今後も職員が業務に専念できる職場環境を整備するため、継続的なサポート、一時保育の柔軟な対応ができるよう受入体制を維持した。

【平均利用者数（1日当たり）】

区分	令和元年度実績		令和 2 年度実績		令和 3 年度実績	
	平日	土日祝	平日	土日祝	平日	土日祝
院内保育	21.2	0.2	14.0	0.3	10.7	2.2
病児保育	0.4	—	0.2	—	0.1	—
夜間保育	0	—	0	—	0	—

※病児保育は平成 30 年 7 月 23 日から開始（平日のみ）。

※夜間保育は平成 31 年 3 月 1 日から開始（金曜日のみ）。

第3 財務内容の改善に関する目標を達成するためとるべき措置

1 持続可能な経営基盤の確立

中期目標	<p>経営の効率化や健全化に向けた取組をさらに進め、中期目標期間中の経常収支の黒字を達成するとともに、市立病院の役割を果たせる持続可能な経営基盤を確立すること。</p> <p>特に、施設の改築更新、医療機器の導入・更新等ハード面の整備については、中長期的な視点で計画的に実施すること。</p> <p>なお、救急、感染症等公的に必要とされる医療を安定的に提供していくため、地方独立行政法人の性質上能率的な経営を行ってもなおその事業の経営に伴う収入のみをもって充てることが客観的に困難であると認められる経費等については、市の一般会計から運営費負担金として支出することとするが、これについては、市民に分かりやすいように内訳や考え方を明らかにした上で適切に中期計画へ反映すること。</p>
-------------	--

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価																	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等																
<p>市民病院としての役割を果たすとともに、増収対策及び費用の合理化により、安定した経営基盤を確立し、より自立した経営を目指す。</p> <p>医療を取り巻く環境の変化に迅速に対応できるよう、適時、経営分析を進めるとともに、地方独立行政法人の特長をいかし、社会情勢の変化に機敏に対応した病院経営を行うことにより、安定的な経常収支の黒字化を目指すとともに、資金収支の維持を図る。</p> <p>【目標値】 岡山市立総合医療センター</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">項目</td> <td style="text-align: center;">令和3年度目標</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">経常収支比率</td> <td style="text-align: center;">100.9%</td> </tr> </table>	項目	令和3年度目標	経常収支比率	100.9%	<p>新型コロナ患者の動向を見ながら、柔軟な診療体制により、当院の使命である感染症医療を行いながら通常診療も行っていく。</p> <p>新型コロナが収束した場合は、速やかに増患対策や各診療科の診療報酬を分析し、急性期病院として適正な平均在院日数、DPC係数のアップや施設基準の取得、手術件数の増により、引き続き安定した経営基盤の確立に取り組む。</p> <p>【目標値】 岡山市立総合医療センター</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">項目</td> <td style="text-align: center;">令和3年度目標</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">経常収支比率</td> <td style="text-align: center;">96.9%</td> </tr> </table>	項目	令和3年度目標	経常収支比率	96.9%	<p>前年度に引き続き新型コロナの影響により、新入院患者数、入院・外来手術料合計は目標を大きく下回った。その結果、医業収支比率は91.3%となり年度目標94.0%に達しなかった。しかし新型コロナ患者受入れの空床補償等の補助金が継続され、収益を確保できたため、前年度に引き続き大幅な黒字を達成した。なお、平均在院日数については、適切な時期の退院の促進や、30日以上入院患者の減少に努め、前年度の12.0日には及ばないものの年度目標の12.7日を達成した。</p> <p>一方、重点医療機関として新型コロナ患者の積極的な受入れのほか、ワクチン接種やPCR検査の実施等コロナ禍における社会のニーズに対応し市立病院としての役割を果たした。今年度、発熱外来を設置し、一般の救急体制の維持と新型コロナ対応を両立させた。</p> <p>【実績値】 岡山市立総合医療センター</p> <table border="1" style="width: 100%;"> <tr> <td style="text-align: center;">項目</td> <td style="text-align: center;">令和元年度実績</td> <td style="text-align: center;">令和2年度実績</td> <td style="text-align: center;">令和3年度実績</td> </tr> <tr> <td style="text-align: center;">経常収支比率</td> <td style="text-align: center;">100.1%</td> <td style="text-align: center;">107.7%</td> <td style="text-align: center;">108.2%</td> </tr> </table>	項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績	経常収支比率	100.1%	107.7%	108.2%	B	B	<p>前年度に引き続き新型コロナ患者の受入体制を整備し補助金収入を得たことで経常収支比率は目標値を大きく上回った一方で、新入院患者、手術料についてはやや回復したものの依然厳しい状況にあり、経営基盤の安定化には課題が残っている。発熱外来の設置など、一般救急と新型コロナへの対応の両立を図っており、今後を見据えた取組として評価できる。</p>
項目	令和3年度目標																				
経常収支比率	100.9%																				
項目	令和3年度目標																				
経常収支比率	96.9%																				
項目	令和元年度実績	令和2年度実績	令和3年度実績																		
経常収支比率	100.1%	107.7%	108.2%																		

	市民病院		市民病院						
	項目	令和 3年度 目標	項目	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績			
		新入院患者数		10,500名以上	新入院患者数	10,147名			
入院・外来手術料合計（麻酔関連を除く）	17億円以上	入院・外来手術料合計（麻酔関連を除く）	1,690,127 千円	1,453,416 千円	1,554,046 千円				

2 収入の確保及び費用の節減

中期目標

効率的な病床利用や高度医療機器の稼働率向上に努め、社会情勢の変化や医療保険制度の変革への的確な対応などにより収入を確保するとともに、給与費比率の適正化や診療材料等の調達コストの削減等、費用の節減及び合理化を図ること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
<p>各部門が収益目標を持ち、目標達成のための取組の進捗状況を管理・評価する目標管理制度の導入、DPCによる診療情報の分析等経営管理手法の積極的な活用により、適正な収益の確保を図る。</p> <p>また、病棟ごとの病床稼働率や平均在院日数の適正水準の維持を前提に、適正なコストでの運営に向け、給与費比率の適正化に努めるとともに、診療材料等の調達方法において新たな仕組みを確立するなどの改善により、費用の節減及び合理化を図る。</p>	<p>円滑な病床管理により、病床稼働率や平均在院日数の適正水準を維持するとともに、救急部門等の効率的な運用を図る。</p> <p>また、診療報酬の分析を行い、新たな加算の取得等、増収のための体制の充実や適正化、運用変更等により、安定した収入確保を図る。</p> <p>未収金の発生を未然に防止するため、関係部署で患者の情報を共有し、早期に医療保険や公費負担等の医療費助成の説明、代行手続きの実施又は各種制度の活用により、患者負担が最小限になるよう努める。</p> <p>また、発生した未収金については、定期的な督促や債権回収委託の活用、法的措置等により、早期回収に努める。</p> <p>地方独立行政法人の特長を生かし、予算の弾力的な運用や多様な契約手法の導入等、医療サービスの質の維持、向上させながら、費用の節減、合理化のスピードアップを図る。</p>	<p>新型コロナ対応のために病床制限を行ったことから一般病床数350床の運用となったため、病床稼働率は年度目標を大きく下回った。しかし新型コロナと通常診療の両立を図るために医療機器の投入や人材の教育に力を入れたことが功を奏し、前年度に比べると入院収益は7.9%増加した。</p> <p>一方で外来については、新型コロナの影響で患者数は減少したものの単価が上昇したことで市民病院の収益は増収となり、前年度より19.7%、新型コロナ前の令和元年度よりも10.0%増加した。</p> <p>救急体制については、発熱外来を設置したこともあり、患者数は前年度より24.4%増となったものの、新型コロナによる病床の使用制限の影響が大きく、救急車の応需率は、5.8%減となった。</p> <p>また、診療報酬の分析を行い、新たな加算の取得等、増収のための体制の充実や適正化、運用変更等により、安定した収入確保を図った。</p> <p>費用のうち人件費については、新型コロナ関連の手当の継続や人材の追加採用により増加したものの、医療収益も増加したため、市民病院の給与費比率は年度計画目標値を達成した。せのお病院の給与費比率についても、定年による職員の入れ替え等から給与費が微減したこともあり、目標値を達成した。</p> <p>支払いが困難な患者に対しては、早期に医療保険や公費負担等の医療費助成の説明や代行手続きの実施、また、各種制度の活用により患者負担を最小限にすることで、未収金の発生を未然に防止するよう努めた。</p> <p>発生した未収金については、患者及び連帯保証人や家族等に対し定期的な催促を行った。悪質な未収金患</p>	B	B	<p>新型コロナの影響を受けているものの、市民病院では病床稼働率や医療収支比率、給与費比率等は改善しつつあるほか、せのお病院では病床稼働率以外の指標は目標を達成しており、評価できる。</p>

【目標値】

市民病院

項目	令和 3年度 目標
病床稼働率 ※1	94.6%
平均在院日数	12.7日
経常収支比率	101.2%
医業収支比率	98.0%
給与費比率	54.8%

せのお病院

項目		令和 3年度 目標
病床稼働率 ※1	一般病床	94.0%
	地域包括ケア病床 ※2	94.0%
平均在院日数	一般病床	17.0日
在院日数	地域包括ケア病床 ※2	60.0日以内 ※3
経常収支比率		110.8%
医業収支比率		86.0%
給与費比率		76.3%

【目標値】

市民病院

項目	令和 3年度 目標
病床稼働率 ※1	88.3%
平均在院日数	12.7日
経常収支比率	97.0%
医業収支比率	94.0%
給与費比率	58.2%

せのお病院

項目		令和 3年度 目標
病床稼働率 ※1	一般病床 ※2	—
	地域包括ケア病床	94.0%
平均在院日数	一般病床 ※2	—
在院日数	地域包括ケア病床	60.0日以内
経常収支比率		110.8%
医業収支比率		86.0%
給与費比率		76.3%

者に対しては、弁護士による債権回収委託を活用し回収を行った。

委託した弁護士から回収不能として返還された債権については内容を精査し、16名（4名は連帯保証人）に対して訴訟手続き（支払督促）を行い、1名は完納となった。

予算を重視しつつも、新型コロナ対応のように予算計上していない費用についても柔軟に対応した。

【実績値】

市民病院

項目	令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績
病床稼働率 ※1	96.9%	73.7% (79.0%)	76.6% (84.7%)
平均在院日数	13.0日	12.0日	12.7日
経常収支比率※2	100.9%	108.6%	107.5%
医業収支比率	94.6%	86.8%	91.3%
給与費比率 ※2	54.7%	61.5%	57.5%

せのお病院

項目		令和 元年度 実績	令和 2年度 実績	令和 3年度 実績
病床稼働率 ※1	一般病床 ※3	—	—	—
	地域包括ケア病床	88.5%	86.6%	86.9%
平均在院日数	一般病床 ※3	—	—	—
在院日数	地域包括ケア病床	34.8日	36.7日	36.9日
経常収支比率		111.4%	115.7%	118.2%
医業収支比率		87.3%	90.6%	92.0%
給与費比率		78.7%	75.4%	73.2%

<p>※1 病床稼働率＝（在院患者延べ数＋退院患者数）×100／（届出病床数×日数） 在院患者延べ数とは 24 時現在に入院中の患者の延べ数</p> <p>※2 新規目標</p> <p>※3 地域包括ケア病床に求められる診療報酬の施設基準とする。（平成 29 年度時点の基準は 60 日以内）</p>	<p>※1 病床稼働率＝（在院患者延べ数＋退院患者数）×100／（届出病床数×日数） 在院患者延べ数とは 24 時現在に入院中の患者の延べ数</p> <p>※2 せのお病院の一般病床は、平成 30 年 5 月から全て地域包括ケア病床に転換している。</p>	<p>※1 病床稼働率＝（在院患者延べ数＋退院患者数）×100／（届出病床数×日数） 在院患者延べ数とは 24 時現在に入院中の患者の延べ数 病床稼働率欄の（）内は、新型コロナ対応病床（感染対策工事による休床分を含む）を除いて計算</p> <p>※2 法人本部に係る費用（一般管理費）を除く。なお、令和元年度から人事課及び財務課が、市民病院から法人本部へ所管替えとなっている。</p> <p>※3 せのお病院の一般病床は、平成 30 年 5 月から全て地域包括ケア病床に転換している。</p>			
--	--	--	--	--	--

第4 その他業務運営に関する目標を達成するためとるべき措置

1 健康・医療・福祉を核としたまちづくりへの貢献

中期目標

市民病院の隣接地に導入予定の健康・医療・福祉系施設と協力し、市の推進する健康・医療・福祉を核としたまちづくりへ貢献すること。

中期計画	年度計画	法人による自己評価		市長による評価	
		評価の判断理由・業務の実施状況等	評価	評価	評価の判断理由・意見等
市民病院の隣接地に導入予定の健康・医療・福祉系施設において、市民への健康講座の開催や、当該施設の機能が市民の健康維持・向上につながる効果的なものとなるよう施設事業者等との連携を図るなど、市の推進する健康・医療・福祉を核としたまちづくりへ貢献する。	市民病院の隣接地に設置された健康・医療・福祉系施設における多職種連携の市民向けの公開講座を、新型コロナウイルスの感染状況を確認しながら、web開催も含め開催に向けて検討していく。	市民病院の隣接地に導入された健康・医療・福祉系施設における、多職種連携による市民の健康増進に向けた健康講座等の具体的な計画等について、岡山市地域ケア総合推進センターが開催を予定していた「退院支援職員研修会」に協力し、web開催により2回開催された。 また、市民の健康に寄与する新たな取組として、岡山市地域ケア総合推進センターと共催で、「まちかど心不全教室」を開催した。	B	B	市地域ケア総合推進センターとの協働、共催により、隣接施設を活用した市民向け講座や他職種向研修会を実施しており、計画を実践できている。

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター業務実績評価の基本方針

平成30年6月27日策定

地方独立行政法人法（平成15年法律第118号。以下「法」という。）第28条第1項の規定に基づく地方独立行政法人岡山市立総合医療センター（以下「法人」という。）の業務実績に関する評価（以下「評価」という。）については、以下の方針に基づき行うものとする。

なお、評価を実施するに当たっては、法第28条第4項及び地方独立行政法人岡山市立総合医療センター評価委員会条例（平成25年市条例第10号）に基づき、地方独立行政法人岡山市立総合医療センター評価委員会（以下「評価委員会」という。）の意見を聴くものとする。

1. 基本方針

- (1) 評価は、法人が実施する業務の公共性に鑑み、また、業務運営の透明性を確保する観点から行う。これにより、中期目標の達成のために、法人の業務運営の改善及び効率化が進められること及び法人の質的向上に資することを目的とする。
- (2) 評価は、年度計画及び中期計画の実施状況を確認及び分析し、法人の業務運営等について総合的に判断して行うものとする。
- (3) 評価に当たっては、単に実績数値にとらわれることなく、年度計画及び中期計画を達成するために行った業務運営の改善や効率化等の特色ある取り組みや工夫についても考慮し、積極的に評価する。
- (4) 評価の方法については、法人を取り巻く環境変化などを踏まえ柔軟に対応するため、必要に応じて見直しを行うこととする。
- (5) 評価を受けることにより法人が改善・見直しを行い、次年度及び次期中期目標期間の計画及び行動に評価結果を反映させる「法人におけるPDCAサイクル」を機能させることを念頭において評価を行う。

2. 評価方法

(1) 評価の種類

評価は、各事業年度終了時に実施する「年度評価」と、中期目標の期間の最後の事業年度の直前の事業年度終了時に実施する「中期目標期間見込評価」、中期目標の期間終了時に実施する「中期目標期間評価」とし、それぞれ「項目別評価」と「全体評価」により行うこととする。

(2) 年度評価

中期計画及び年度計画に記載されている小項目、大項目及び全体について評価を行う。

なお、年度評価に係る評価基準等の詳細については、別途実施要領で定めるものとする。

ア. 項目別評価

各事業年度における業務の実績について、法人による自己評価の結果を踏まえ、項目別評価（小項目及び大項目）を行う。

イ. 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、年度計画の実施状況、中期計画の進捗状況その他業務運営全体について総合的に評価する。

(3) 中期目標期間見込評価

中期目標及び中期計画に記載されている大項目及び全体について評価を行う。

なお、中期目標期間見込評価に係る評価基準等の詳細については、別途、実施要領で定めるものとする。

ア. 項目別評価

中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務の実績に係る自己評価の結果を踏まえ、中期目標の達成状況等について項目別評価（大項目）を行う。

イ. 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務運営全体について総合的に評価する。

(4) 中期目標期間評価

中期目標及び中期計画に記載されている大項目及び全体について評価を行う。

なお、中期目標期間評価に係る評価基準等の詳細については、別途、実施要領で定めるものとする。

ア. 項目別評価

中期目標の期間における業務の実績に係る自己評価の結果を踏まえ、中期目標の達成状況等について項目別評価（大項目）を行う。

イ. 全体評価

項目別評価の結果を踏まえ、中期目標の期間における業務運営全体について総合的に評価する。

3. 評価の進め方

(1) 法人からの報告書の提出

法人は、法第28条第2項に基づく報告書（以下「業務実績報告書」という。）の提出に際し、各事業年度の業務実績報告書においては、年度計画に記載されている小項目などについて法人が行った自己評価をあわせて記載するものとし、中期目標の期間の終了時に見込まれる中期目標の期間における業務実績報告書及び中期目標の期間における業務実績報告書においては、中期目標及び中期計画に記載されている大項目などについて法人が行った自己評価をあわせて記載するものとする。

(2) 評価の実施

市長は、提出された業務実績報告書をもとに、必要に応じて法人から意見聴取や追加資料の提供を受け、これらを踏まえて業務の実施状況を確認及び分析し、評価委員会の意見を聴いた上で、総合的な評価を行う。

(3) 意見申立て機会の付与

市長は、評価結果の決定に当たり、法人に対し評価結果（案）に対する意見申立ての機会を付与する。

4. 評価結果の活用

- (1) 法人は、評価結果や業務改善等の命令を受けて、法人として取り組む事項を明確にし、改善に取り組むとともに、状況を市長に報告する。
- (2) 法人の業務の継続又は組織の存続の必要性等に関する検討、次期中期目標及び中期計画の策定に関しては、中期目標期間の各年度の評価結果を踏まえるものとする。

地方独立行政法人岡山市立総合医療センター年度評価実施要領

平成30年6月27日策定

地方独立行政法人法第28条の規定に基づく地方独立行政法人岡山市立総合医療センター（以下「法人」という。）の各事業年度における業務実績に関する評価（以下「年度評価」という。）を実施するに当たっては、「地方独立行政法人岡山市立総合医療センター業務実績評価の基本方針」に基づき、以下の要領により実施する。

1. 評価方法

年度評価は、法人から提出された各事業年度における業務実績を明らかにした報告書（以下「業務実績報告書」という。）等をもとに、「項目別評価」及び「全体評価」により行う。

評価結果は、別に定める「評価結果報告書」に記載するものとする。

2. 項目別評価の具体的方法

「項目別評価」は、原則として当該年度の年度計画に定めた項目（小項目）ごとに、その実施状況について、法人が自己評価を行い、業務実績報告書を作成、市長に提出する。市長は、地方独立行政法人岡山市立総合医療センター評価委員会（以下「評価委員会」という。）の意見を聴いた上で、小項目評価を行い、続いて年度計画に掲げる「第1～第4」の項目（大項目）について評価を行う。

（1）法人による小項目の自己評価

法人において、小項目ごとの進捗について次の5段階の評語を付して自己評価を行う。

その際、市長が業務の実施状況を客観的に適正に判断して評価できるよう、小項目ごとの実施状況をできる限り定量的かつ正確な記述により業務実績がわかるよう工夫するとともに、自己評価の結果とその判断理由を記載した業務実績報告書を作成する。

なお、業務実績報告書には、特色ある取り組み、法人運営を円滑に進めるための工夫、今後の課題などを特記事項として自由に記載するものとする。

S（評点5）：年度計画を大幅に上回って実施している。

A（評点4）：年度計画を上回って実施している。

B（評点3）：年度計画を順調に実施している。

C（評点2）：年度計画を十分に実施できていない。

D（評点1）：年度計画を大幅に下回っている。

（2）市長による小項目評価

法人から提出された業務実績報告書等をもとに、法人の業務実績や法人による自己評価などを総合的に検証し、小項目ごとの進捗状況について、法人の自己評価と同様に「S、A～D」の5段階の評語を付すことにより小項目評価を行う。

その際、単に目標値及び前年度数値と当該実績値の比較だけでなく、計画を達成する

ために行った取り組み等についても考慮し、総合的に判断するものとする。

評価に当たり、法人の自己評価と異なる場合は、その判断理由を記載し、また、その他必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点についても記載する。

なお、総合的な判断を行うため、市長は、必要に応じて法人への意見聴取や資料提供を求めることができることとする。

(3) 市長による大項目評価

大項目ごとに中期計画の実現に向けた業務の進捗状況の評価するため、小項目評価における平均評点を客観的基準として、次の5段階の評語を付すことにより大項目評価を行う。

また、その他必要に応じて、特筆すべき点や遅れている点について記載する。

- 5：中期計画の実現に向けて、特筆すべき進捗状況にある
(小項目評価評点平均4.2以上)
- 4：中期計画の実現に向けて目標を上回って実施している
(小項目評価評点平均3.7以上4.1以下)
- 3：中期計画の実現に向けて概ね計画どおり進んでいる
(小項目評価評点平均2.7以上3.6以下)
- 2：中期計画の実現のためにはやや遅れている
(小項目評価評点平均1.7以上2.6以下)
- 1：中期計画の実現のためには重大な改善すべき事項がある
(小項目評価評点平均1.6以下)

3. 全体評価の具体的方法

項目別評価の結果を踏まえ、年度計画及び中期計画の全体的な進捗状況について、記述式による評価を行う。

全体評価においては、法人化を契機とした病院改革の取り組み（法人運営における業務運営の改善・効率化、財務内容の改善など）を積極的に評価するものとする。

また、項目別の結果とともに、主な取組や特色ある取組及び特に優れている点等特筆すべき取組についても記載するものとする。

さらに、業務実施状況に対する評価委員会の意見や改善すべき事項に対する指摘を評価結果報告書に記載するとともに、特に重大な改善事項については必要な措置を講ずることを命ずるものとする。

